

令和7年度実施

令和6年度 教育委員会事務事業点検・評価報告書



令和7年8月

海陽町教育委員会

目 次

| | |
|-------------------|-----|
| 1 実施方法 | 1 |
| (1) 点検及び評価の対象について | 1 |
| (2) 点検及び評価の方法 | 1 |
| (3) 評価結果の取扱いについて | 2 |
| (4) 評価スケジュール | 2 |
| 2 教育委員会の活動状況 | 3 |
| (1) 教育委員会の組織 | 3 |
| (2) 教育委員会の会議の開催状況 | 3 |
| (3) その他の活動 | 4 |
| ① 会議・研修会等 | 4 |
| ② 行事等 | 4 |
| ③ 学校訪問 | 4 |
| 3 点検及び評価結果 | 5 |
| (1) 点検及び評価事業一覧 | 5 |
| (2) 事務事業評価シート | 7 |
| 4 外部評価委員会の意見 | 7 5 |

【資料】

| | |
|-------------------------|-----|
| 資料1 海陽町教育委員会外部評価委員会設置要綱 | 8 1 |
|-------------------------|-----|

はじめに

「地方行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」（昭和31年法律第162号）が、平成19年6月に公布され、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月1日から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされました。

このことから、海陽町教育委員会は、この規定を受け、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施し、報告書をまとめました。

今後とも町教育行政施策の更なる充実に向けた取り組みの推進に努めて参りますので、皆様の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 実施方法

(1) 点検及び評価の対象について

点検及び評価の対象とする事業は、海陽町第3期教育振興計画（令和3年度から令和7年度までの5年間）及び令和6年度海陽町教育基本方針に定める各施策に基づいて実施した68事業を対象として行いました。

(2) 点検及び評価の方法

①一次評価（内部評価）

教育委員会事務局において、令和6年度に取り組んだ68の各事業ごとに実績を整理し、一次評価を行いました。一次評価は、事業所管係で評価管理シートを用い、事業目的、事業内容、一次評価、今後の取り組みの方向性や今後の方針を記入しました。

成果指標の状況欄の上段には、計画策定時（令和3年度）から計画終了時（令和7年度）までの各年度の目標を数値で記入しています。また、下段には、各年度の実績値を記入します。

一次評価は、令和6年度の達成状況を表1の評価基準により行いました。

評価基準（内部評価）

表1

| 達成度評価 | |
|---|---|
| 目標達成率 100%超(目標を超えて達成している) | A |
| 目標達成率 80%以上~100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | B |
| 目標達成率 60%以上~80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等、大幅な改善を要する) | C |
| 目標達成率 60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | D |

②二次評価（外部評価）

点検・評価内容の客観性を確保するために教育に関して学識経験者を有する外部評価委員会を（外部評価委員名簿 表2）令和7年7月18日(金)に開催いたしました。

本年度実施の外部評価委員会では、一次評価を実施した68の事業の中から、海陽町教育委員会主要施策等の11事業（表3）を抽出し、一次評価に係る目標に対する進捗状況や事業効果などについて点検・評価するとともに、二次評価及び評価に係る意見をいただきました。また、教育委員会の活動状況についても意見をいただきました。（資料は事前に配付し、効率的な会議運営に努めました。）

外部評価委員名簿

表2

| 事務点検・評価委員名 | 役職等 |
|------------|--------------|
| 福井 千賀子 | 元婦人会会長・元保育園長 |
| 皆津 隆一 | 元小学校長 |

二次評価（外部評価）事業一覧

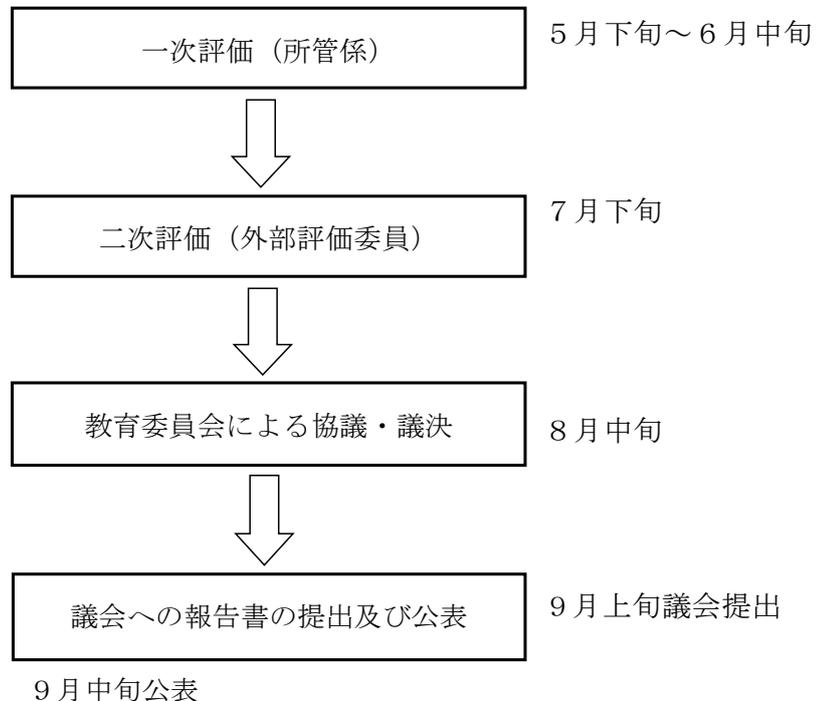
表 3

| No | 評価番号 | 事業名 | 事業所所管 |
|-----|------|----------------------------|-----------|
| 1 | 4 | 地元高校魅力化推進補助 | 学校教育 |
| 2 | 1 1 | グローバル教育の推進 | 学校教育 |
| 3 | 1 2 | I C T教育の推進 | 学校教育 |
| 4 | 1 9 | 放課後子ども教室の運営 | 学校教育 |
| 5 | 3 1 | 公民館活動 | 生涯教育 |
| 6 | 4 1 | 図書館の運営の充実 | 生涯教育 |
| 7 | 4 7 | 同和教育の推進 | 人権教育 |
| 8 | 5 4 | 新春ふれあい駅伝大会運営 | 文化・スポーツ振興 |
| 9 | 5 8 | 部活動改革への対応の検討 | 教育基盤の整備 |
| 1 0 | 6 4 | 衛生環境の向上（洋式トイレの整備） | 教育基盤の整備 |
| 1 1 | 6 7 | 町奨学金貸与・おかせR e ターン海陽奨学金支援制度 | 教育基盤の整備 |

(3) 評価結果の取扱いについて

教育委員会が行う事務事業の点検及び評価に関する結果を、報告書としてとりまとめ、毎年9月開会の町議会定例会に提出し、公表するとともに、翌年度における施策、事業の改善に役立て、より効果的な教育行政の運営が図られるようにします。

(4) 評価スケジュール



2. 海陽町教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会の組織

○教育委員会委員の就任状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

令和7年3月31日現在

| 氏名 | 役職 | |
|-----------|----------|--|
| 三浦 良 | 教育長 | 平成30年6月21日 就任 令和6年6月21日 再任 |
| 富田 充宏 | 教育長職務代理者 | 平成28年5月28日 教育長職務代理者 就任 令和6年5月28日 再任 |
| ラフォンテーヌ裕子 | 教育委員 | 平成27年5月28日 就任 令和5年5月28日 再任 |
| 木戸口 貢 淳 | 教育委員 | 平成29年5月27日 就任 令和3年5月27日 再任 |
| 西宮 治 | 教育委員 | 平成30年5月27日 就任 令和4年5月27日 就任 |

(2) 教育委員会の会議の開催状況等

毎月1回定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催

| | 開催日 | 議案 | 協議事項 | 報告事項 | 計 |
|-------------|------------|----|------|------|-----|
| 令和6年第4回定例会 | 令和6年 4月17日 | 5 | 1 | 2 | 8 |
| 令和6年第5回定例会 | 令和6年 5月22日 | 2 | 1 | 8 | 11 |
| 令和6年第6回定例会 | 令和6年 6月19日 | 3 | 1 | 6 | 10 |
| 令和6年第7回定例会 | 令和6年 7月24日 | 4 | 2 | 4 | 10 |
| 令和6年第8回定例会 | 令和6年 9月6日 | 3 | 0 | 7 | 10 |
| 令和6年第9回定例会 | 令和6年 9月25日 | 3 | 0 | 4 | 7 |
| 令和6年第10回定例会 | 令和6年10月23日 | 2 | 2 | 2 | 6 |
| 令和6年第11回定例会 | 令和6年11月27日 | 3 | 1 | 6 | 10 |
| 令和6年第12回定例会 | 令和6年12月18日 | 3 | 2 | 5 | 10 |
| 令和7年第1回定例会 | 令和7年 1月29日 | 4 | 2 | 3 | 9 |
| 令和7年第2回定例会 | 令和7年 2月25日 | 4 | 5 | 4 | 13 |
| 令和7年第1回臨時会 | 令和7年 3月 5日 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 令和7年第3回定例会 | 令和7年 3月27日 | 5 | 5 | 2 | 12 |
| 計 | | 43 | 22 | 53 | 118 |

(3) その他の活動

①会議・研修会等

| 時 期 | 名 称 | 概 要 |
|---------|-------------------------------|--|
| 令和6年 4月 | 徳島県市町村教育委員会教育行政連絡協議会 | 令和5年度徳島県教育重点施策について (年1回開催) |
| | 徳島県市町村教育委員会連合会定期総会・研修大会 | 徳島県市町村教育長会合同理事会を受けた定期総会及び研修大会(年1回開催) |
| 令和6年11月 | 徳島県・市町村教育委員会教育委員等研修会(オンライン会議) | 教育委員会制度の理念や教育及び教育行政に関する理解と見識をより深め、教育を取り巻く諸問題に的確に対応し、教育行政の円滑な推進を図る。 |

②行事等

| 時 期 | 名 称 | 概 要 |
|------------|---------------|-------------------------------|
| 令和6年 4月 | 幼小中学校 入学式 | 幼稚園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席 |
| 令和6年5月～10月 | 幼小中学校 運動会・体育祭 | 幼稚園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席 |
| 令和7年 1月 | 令和6年20歳を祝う会 | 対象者89名のうち参加者68名 (出席率76.4%) |
| 令和7年 3月 | 幼小中学校 卒業式 | 幼稚園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席 |

③学校訪問

| 時 期 | 名 称 | 概 要 |
|-----------|---------|-------------------------|
| 令和6年6月～7月 | 町教委学校訪問 | 幼稚園1園、小学校3校、中学校2校へ3日間訪問 |

点検及び評価事業一覧

| 方針 | 施策 | 評価番号 | 事業名 | 事業所管係 | |
|----------------------------|-------------------------------|------|-------------------------|-------|------|
| 1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進 | 1 幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進 | 1 | 幼児教育の充実 | 学校教育 | |
| | | 2 | 町内園・校長会の開催 | | |
| | | 3 | 中学校部活動運営(合同体制)の充実 | | |
| | | ④ | 地元高校魅力化推進補助 | | |
| | | 5 | スクールバス運営 | | |
| | | 6 | 20歳を祝う会 | | |
| 2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実 | 1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成 | 7 | 学力向上推進 | | |
| | | 8 | 学校図書館の充実 | | |
| | | 9 | キャリア教育の推進 | | |
| | | 10 | 家庭教育の充実 | | |
| | 2 グローバル視点の先端教育の推進 | ⑪ | グローバル教育の推進 | | |
| | | ⑫ | ICT教育の推進 | | |
| | | 13 | 子どもあゆみ活用事業 | | |
| | | 14 | 英語検定補助 | | |
| | | 15 | ALT派遣事業 | | |
| | | 16 | 学校活性化協議会 | | |
| 3 地域と共創する教育力の向上 | 1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上 | 17 | コミュニティスクールの充実・推進 | | |
| | | 18 | 土曜学習の推進 | | |
| | | ⑲ | 放課後子ども教室の運営 | | |
| | | 20 | インクルーシブル教育の推進 | | |
| | 2 豊かな心と体の育成 | 21 | SC・SSW活用 | | |
| | | 22 | 人権教育の推進 | | |
| | | 23 | 食育の推進 | | |
| | | 24 | 学校給食の充実 | | |
| | | 25 | いじめ・不登校防止 | | |
| | | 26 | 定期補導活動 | | |
| | | 27 | 青少年健全育成活動の推進 | | |
| | | 28 | 学校教育における福祉教育の充実 | | |
| | | 29 | 児童生徒の生活習慣の改善 | | |
| 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | 1 生涯学習の振興 | 30 | 生涯教育の振興と充実 | | 生涯教育 |
| | | ⑳ | 公民館活動 | | |
| | | 32 | 伝統文化継承・地域活性化等補助金 | | |
| | | 33 | 社会教育施設の充実(公民館・体育施設も含む) | | |
| | | 34 | 地域づくりに取り組む人財や団体の育成 | | |
| | | 35 | グローバルな人財の育成(ALT・CIRの活躍) | | |
| | | 36 | 地域における福祉教育の充実 | | |
| | | 37 | 挨拶や声掛けによる教育の充実 | | |

| | | | | |
|-----------------------|---|----------|--------------------------|-----------|
| 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | 2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進 | 38 | 海陽町文化協会 | 生涯教育 |
| | | 39 | 文化館の運営の充実 | |
| | | 40 | 博物館の運営の充実 | |
| | | ④1 | 図書館の運営の充実 | |
| | | 42 | 文化館自主事業 | |
| | | 43 | 阿波海南文化村祭 | |
| 5 地域ぐるみで生き抜く力をつける | 1主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底 | 44 | 防災教育の推進 | 防災教育 |
| | | 45 | 子どもあゆみ活用事業 | |
| | | 46 | 東日本大震災の教訓復興教育 | |
| 6 人権教育の推進 | 1人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進 | ④7 | 同和教育の推進 | 人権教育 |
| | | 48 | 男女共同参画社会の実現に向けた学習活動への推進 | |
| | | 49 | 共生社会の実現に向けた学習活動への支援 | |
| 7 文化振興 | 1文化財に主体的に関わり、身近に感じ、魅力を広げる活動の推進 | 50 | 文化財保護・活用 | 文化・スポーツ振興 |
| | | 51 | 地域文化伝承の語る仕組みづくり | |
| 8 スポーツ振興 | 1生涯スポーツ環境の充実 | 52 | スポーツ少年団助成 | スポーツ振興 |
| | | 53 | 体育協会助成 | |
| | | ⑤4 | 新春ふれあい駅伝大会運営 | |
| | | 55 | 統合型スポーツクラブ | |
| 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | 1新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上 | 56 | 教職員の指導体制と学校の支援体制充実 | 教育基盤の整備 |
| | | 57 | 教職員の健康管理と働き方改革の推進 | |
| | | ⑤8 | 部活動改革への対応の検討 | |
| | | 59 | ICT教育の指導員の養成 | |
| | | 60 | 配慮を要する子どもへの支援体制の充実 | |
| | | 61 | 特別支援教育の充実(巡回相談員の配置と活用) | |
| | | 62 | 教育委員会表彰 | |
| | | 63 | 学校施設整備 | |
| | 2学校経営の充実 | ⑥4 | 衛生環境の向上(洋式トイレの整備) | |
| | | 3教育機会の確保 | 65 | |
| | 66 | | 子どもあゆみ活用事業活用 | |
| | ⑥7 | | 町奨学金貸与・おかえReターン海陽奨学金支援制度 | |
| 68 | 通学補助金交付 | | | |

○は外部評価対象事業

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

1

| | | | | | | | | |
|-------------------------|---|---|-------------------|--|-----|-----|------|--|
| 基本方針 | | 1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進 | | | | | | |
| 施策 | 1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 幼児教育の充実 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | |
| 事業目的 | こども園・小学校の連携・接続がスムーズにできるよう、事前打ち合わせや事後の振り返りなどの研修会の充実と職員同士のコミュニケーションの場の設定を進める。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ○小学校職員と新入学時についての引き継ぎ【4月】 ○アプローチカリキュラムについて共有【8月】 ○年間交流(直接交流・オンラインなど)【通年】 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | こども園と小学校との教員間で情報交換 や研修会の年間実施回数(回) | | 2 | 6 | 8 | 10 | 8 | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | 7 | 9 | 9 | 8 | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 令和6年度の実施回数は目標数値には達しなかったが、継続性・系統性のある深まりを感じる交流が実施できた。教職員同士の情報交換も充実し、密な連携がとれている。また、横の連携として、他就学前施設との交流も増えてきている。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上~100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上~80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | |
| 今後の 取り組み の方向性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 「幼保小の架け橋プロジェクト」の実施に伴い、新設されたかいうようこども園の実態に即したアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの見直しを進めていきたい。町内の複数の小学校との交流を積極的に深め、教職員同士の交流や保育内容など話し合う機会をもち、互いの教育内容への理解を深めていきたい。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

2

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|--|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進 | | | | | | |
| 施策 | 1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 町園・校長会の開催 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 教育委員会と学校現場が互いに共通認識・共通理解を図り、より良い学校教育を推進するとともに海陽町の教育の充実を図る。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 町内の園・小中学校及び海部高校の校長が毎月、その時々のも種多様なテーマのもと、情報交換を行い、共通理解を図っている。 特に本町の特色として、幼稚園から高校まで、縦の繋がりを重視し、一貫した教育について、伝達事項・確認事項をはじめ、教育課題の解決に向けた話し合いを進めている。 また、緊急を要する場合は、臨時の園・校長会を開催し、速やかな対応を行っている。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 年間実施回数（回） | | | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 13 | 12 | 12 | 11 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6年 4月10日 (4 協議ほか) ・令和 6年 6月27日 (10 協議ほか) ・令和 6年 9月17日 (4 協議ほか) ・令和 6年11月25日 (2 協議ほか) ・令和 7年 1月28日 (5 協議ほか) ・令和 7年 3月19日 (19 協議ほか) ・令和 6年 5月20日 (7 協議ほか) ・令和 6年 7月16日 (6 協議ほか) ・令和 6年10月21日 (3 協議ほか) ・令和 6年12月17日 (5 協議ほか) ・令和 7年 2月25日 (5 協議ほか) ※幼小中高の連携が深められ、海陽町の教育目標の具現化とその実践に向け取り組めた。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ○園・学校それぞれの学校運営の円滑な推進のために、幼稚園・小学校・中学校・高校・教育委員会で、毎月園・校長会を開催し、教育委員会、学校間での情報共有など、連携を密にしながより良い学校教育の推進と海陽町の教育の充実にも努める。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

3

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|--|-----|------|------|------|
| 基本方針 | | 1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進 | | | | | | |
| 施策 | 1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 中学校部活動運営（合同体制）の充実 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 2125 | R 5 | 2027 | R 6 | 2155 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 海陽中・穴喰中の部活動を維持し、町内中学生の部活動選択肢を総合的に広げ、有意義な中学生生活に繋げる。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | (1) 部活動バスを活用し、両校の部活動現状体制を維持する。 ① 拠点校チームの送迎（週5日程度）に活用する。 ② 土・日・祭日では、他校への合同練習・練習試合等に活用する。 ③ 穴喰中から海陽中迄の送迎バスを運行する。（週3日-火・水・金） ・往路 穴喰中→海陽中（バレー・バスケ・サッカー）→牟岐中（野球・体操） ・復路 牟岐中（野球）→海陽中（バレー・バスケ・サッカー）→穴喰中 (2) 部活動指導者研修会を開催し、指導者の指導力向上と生徒の体力・スキルアップを図る。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 年間実施回数（回） | | | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 318 | 257 | 293 | 330 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ・部活動バスについては、2校の野球・バレー・バスケ・サッカー部の拠点校チームを組んだ。バス利用により、練習・試合等でチームの強化・充実が図られた。また、本事業により、町内部活動体制が維持でき、両校の生徒にとって活発で生き生きとし充実した中学校生活に繋がった。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ・両校とも郡内拠点校方式チーム内で、十分な練習・試合等ができる協力体制を取る。 ・指導者との密接な連絡調整を行い、生徒のスキルアップやチーム力向上に尽くす。 ・海部高校の部活動活性化に繋げる。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | 休 廃 止 | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

4

| | | | | | | | | |
|--------------------------------------|--|---|-------------------|--|-----|--------|------|------|
| 基本方針 | | 1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進 | | | | | | |
| 施策 | 1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 地元高校魅力化推進補助 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 6,953 | R 5 | 13,062 | R 6 | 12,880 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 人口減少が急速に進む地域の高校において、地域の新たな活力を創出するため、特色ある教育や学校の活性化を図り、生徒や保護者の関心を惹きつけるとともに、町独自の魅力ある教育により生徒への支援を通して、定員の維持、高校存続に努める。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 海部高校の魅力化や生徒の学力向上を目指して、通信衛星講座・スマホ学習、海外短期留学・国内短期留学・英検補助・部活動の遠征や強化補助・人材育成PR動画の作成の実施 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値 | 県立海部高校への入学者数（人） | | | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 109 | 85 | 99 | 99 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | (令和6年度入学者) 県外・郡外44人 郡内 55人 合計 99人 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | ○ | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 県外郡外の生徒及び生徒の両親が安心して生活できる受入体制の構築や、まち親の開拓等安定した生徒募集が可能な体制づくりを進める。今後、引き続き生徒募集拡大のための広報や、地域みらい留学制度の活用など、高校及び県とともに必要な取り組みを実施する。 令和5年度からは、美波町・牟岐町からも負担金を拠出してもらい、野球部の活性化に取り組んでいる。美波町・牟岐町との連携についても強化していきたい。 | | | | |
| | | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

5

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|--|-----|--------|------|------|
| 基本方針 | | 1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進 | | | | | | |
| 施策 | 1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | スクールバス運営 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 19,260 | R 5 | 20,893 | R 6 | 32,116 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 園児・児童の登下校や校外活動にスクールバスを運行して、遠距離通学児童の利便性や安心・安全な通学を推進する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> ・園児・児童の登下校及び校外活動に運行する。 ・「海陽町スクールバス運営委員会」を開催し、スクールバスの運営を円滑に行う。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 運営委員会の開催数（回） | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 令和7年4月4日 スクールバス運営委員会開催 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 老朽化した車両については、計画的な車両更新を行い、安全安心な運行を実施する。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

6

| | | | | | | | | |
|-------------------------|---|---|-----|-------------------|---|------|--------------|---|
| 基本方針 | | 1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進 | | | | | | |
| 施策 | 1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 20歳を祝う会 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 178 | R 5 | 932 | R 6 | 677 | 所管種別 学校教育 | |
| 事業目的 | 町をあげて人生の節目を祝うことで、ふるさとに誇りを持ち、厳しい時代に打ち勝つ逞しい社会人になるとともに、将来の地域の担い手として大きく前進することを願って実施する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ○8月前半の帰省に合わせ、新成人と打合せ会を行い、記念品の選定・式典当日の役割分担（司会等）について協議を行った。 ○海陽町二十歳を祝う会開催 令和7年1月2日（木） 午後1：00～ 阿波海南文化村 海南文化館ホール 対象者：平成16年4月2日～平成17年4月1日生まれ 海南地区39名 海部地区15名 宍喰地区30名 合計84名（男性45名 女性39名） | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | 出席者の割合（%） | | 70 | 80 | 80 | 80 | 90 | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | 80 | 66 | 76 | 76.2 | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ○令和7年海陽町二十歳を祝う会（令和7年1月2日実施） 出席者：海南地区 男性15名 女性15名 海部地区 男性 5名 女性 3名 宍喰地区 男性11名 女性15名 合計64名 出席率76.2%であった。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事業の達成度評価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超（目標を超えて達成している） | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%（目標を達成、もしくは概ね達成している） | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満（目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する） | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満（目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する） | | | | | | | |
| 今後の 取り組み の方向性 | | 拡 | 充 | 今後の方針 (Action) | 新成人が企画運営に携わる良い伝統を継承しつつ、今後も思い出の残る良い成人式を新成人とともに考え、運営していく。 民法改正により成人年齢が引き下げられたが、今後も現行どおり20歳を迎える方を対象とする。 | | | |
| | ○ | 継 | 続 | | | | | |
| | | 縮 | 小 | | | | | |
| | | 見 | 直 | | | | | し |
| | | 休 | 廃 | 止 | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

7

| | | | | | | | | |
|-------------------------|---|---|-------------------|--|--------------|--------------|-----------|------|
| 基本方針 | | 2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実 | | | | | | |
| 施策 | 1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成 | | | | | | | |
| 事業名 | 学力向上推進 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 小学校 ①基礎・基本の定着と児童の思考力を深める授業の実践 ②学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立 中学校 ①基礎・基本の定着を図りつつ、主体的に学ぶ力を伸ばす学習指導の工夫改善 ②学習習慣を定着させるとともに、効果の上がる勉強方法を身につけさせる。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ・各教科の学習や特別活動等において目標を設定し、主体的に取り組めるように促す。 ・学習のめあてをはっきりと示し、振り返りの時間をしっかりと位置づけ、個々の学びを共有することにより、次の学習への意欲を高める。 ・子供の関心を生かした魅力ある単元づくりを進める。 ・「なぜ」、「どうして」の疑問が生まれる発問の工夫をする。 ・授業目標の明示や振り返りを行い、基礎的・基本的な知識・技能が身につくようわかりやすい授業を実践する。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | 全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙において、「授業（小国・算、中国・数）の内容がよく分かる」と答えた児童生徒の肯定的な回答の割合（%） | | 全国平均回答率以上 | 全国平均回答率以上 | 全国平均回答率以上 | 全国平均回答率以上 | 全国平均回答率以上 | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | 中国以外は全て全国以上 | 小学校は全国平均以上 | 中の数以外は全て全国以上 | 小の算以外は全て全国以上 | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ・小学校の国語、中学校の国語・数学は全国平均回答率より数ポイント高い。小学校の算数は全国平均回答率より数ポイント低い。 ○国語 勉強は好きで、授業の内容もよく分かると答えた割合は、小中学生ともに全国値と比べて高い。 ○算数・数学 授業の内容はよく分かると答えた中学生の割合は、全国値と比べて高い。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今後の 取り組み の方向性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ○AI型教材「Qubena」を活用し、個に応じた指導を行う。 ○主体的・対話的で深い学びに繋がる授業改善を生徒に発達段階に応じて積極的に取り入れる。 ○タブレット機器を効果的に活用し、生徒の理解を促進させ思考力や判断力の育成に努める。各教科や朝自習等で学力向上確認プリントを使用して「活用力」を高めていく。 ○数学的な表現を用いて説明する機会を多く持たせるようにする。いろいろな表現方法を学ばせることで、表現力を高めさせる。 基本的な証明問題に取り組みさせる中で、図形の性質をしっかりと理解させ、その上でいろいろな結論の証明問題に取り組みさせる。 ○グローバル人材育成のため、学校種間で連携した研修の実施など小・中学校、高校の系統的な英語教育の指導体制を充実させる。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

8

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|--|------|------|--------------|------|
| 基本方針 | | 2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実 | | | | | | |
| 施策 | 1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成 | | | | | | | |
| 事業名 | 学校図書館の充実 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 1,050 | R 5 | 963 | R 6 | 983 | 所管種別 学校教育 | |
| 事業目的 | 各学校の図書充足率向上を目指すとともに、児童・生徒の本に親しむ機会をつくり、学力の向上、調べ学習や読書活動の充実を図る。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 子どもの豊かな読書経験の機会を充実させていくためには、子どもの知的活動を増進し、多様な興味・関心に応える魅力的な図書を整備・充実させていくことが必要であり、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等において多様な教育活動を展開していくためにも、図書の充実を図る。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 学校図書館図書標準の20%増達成率 (%) | | | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 100% | 100% | 100% | 100% | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 令和6年度購入実績 ・海南小学校 39冊 176,180円 ・海部小学校 100冊 200,000円 ・宍喰小学校 102冊 203,432円 ・海陽中学校 88冊 205,309円 ・宍喰中学校 48冊 197,920円 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上~100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上~80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ○P T A等と連携した取組の推進・基本的な生活習慣の定着 ・ノーテレビ・ノーゲームデーの推進 ○学校 ・親子読書など家庭での読書の習慣付けを図る取組等 ○学校 図書館の蔵書の充実を図るとともに、町立図書館との連携を進めること で、これまで以上に児童生徒の読書活動を推進 ○「こどもの読書週間」(子ども読書の日を含む)、「読書週間」に関 連した読書啓発の実施 ○様々な情報機器が生活や学習の場で使われるようになっていく中、時 間の有効活用を踏まえた上で読書のメリットをいかに伝え、読書しやす い環境をどのように作り出していくかが課題となっている。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

9

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|------|------|------|------|
| 基本方針 | | 2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実 | | | | | | |
| 施策 | 1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成 | | | | | | | |
| 事業名 | キャリア教育の推進 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 地元海陽町の生活を支えている人材との出会いや交流体験、職業に関わる体験などの活動をおして、自らの生き方や将来の職業生活について考えを深め、社会的、職業的に自立し、社会の中で自分の役割や自分らしい生き方を実現させようという心を育成する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 夢の実現に向けて自己を切り拓く態度や能力を培うキャリア教育を推進する。 児童生徒の発達段階に応じ、小学校段階から学校の教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育を推進し、一人一人の望ましい勤労観、職業観を育てる教育の充実を図り、中学校職場体験学習プログラムを活用した職場体験を行う中学校を支援する。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | キャリアパスポートの作成と学年、校種間 への引き継ぎ率 (%) | | | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 100% | 100% | 100% | 100% | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ○キャリア教育全体計画の作成、キャリアパスポートの活用 ○中学校で講師を招き、「就職ガイダンス」（マナーを身につける、「はたらく」を知る、「じぶん」を知る）の出前授業講演を実施した。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ○小学校、中学校のキャリア教育を支援するため、児童生徒が自分自身のキャリア発達を継続的に記録、蓄積するキャリア・パスポートについての活用の周知徹底を図る。 ○今後も、産業界や経済団体等から学校に講師派遣を依頼し、学年単位での出前授業や講演を実施する。 ○中学校においては、職場体験やいのちの学習教育等を行うことにより、キャリア教育を推進し、進路意識を高めることができた。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

10

| | | | | | | | | |
|-------------------------|---|---|-------------------|---|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実 | | | | | | |
| 施策 | 1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成 | | | | | | | |
| 事業名 | 家庭教育の充実 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | - | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 家庭は全ての教育の出発点という視点にたち、家庭の教育力向上とその充実を図るため、各種情報の提供や相談支援など家庭教育の支援に努める。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> ・「草木染めをいちから学ぼう」 ・「ぬいぐるみ制作ワークショップ（文化村まつり）」 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | 家族で参加できるイベント実施回数・世代間交流年間実施回数（回） | | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | 4 | 3 | 3 | 2 | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> ・「草木染めをいちから学ぼう」8名 ・「ぬいぐるみ制作ワークショップ（文化村まつり）」41名 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今後の 取り組み の方向性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 家庭は全ての教育の出発点という視点にたち、今後も親子で参加しやすい企画内容を心がける。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

11

| | | | | | | | | |
|-------------------------|---|---|-------------------|---|-----|--------|------|------|
| 基本方針 | | 2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実 | | | | | | |
| 施策 | 2 グローバル視点の先端教育の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | グローバル教育の推進 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 27,883 | R 5 | 47,357 | R 6 | 48,535 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 海陽町の児童生徒の「使える英語」の力を伸ばし、グローバル化に対応できる人材を育成する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> ・英語イマージョン教育私立学校法人のコンサルティングを導入 (研修・視野を広げるための小学生向けイベント・町外生との交流・英語教育アドバイス) ・グローバル事業スタッフの配置(グローバル教育推進員・ALT・CIR・英語推進員) ・学校教育の充実(授業ミーティング・帯活動・オンラインホームワーク) ・学校外活動の展開(放課後教室・動画配信・英語イベント(イングリッシュキャンプ含む)) ・地域/観光への拡充 (国際交流イベント・HP整備・英語表記/翻訳サポート・関係機関協力/連携・広報掲載等) ・検定等受験の促進(英検/英検ESG補助・CEFR測定) | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 中学校3年生で英検3級合格者の割合 (%) | | | 40 | 65 | 65 | 65 | 65 |
| | 中学3年生でCEFR(A1以上)取得割(%) ・CEFR-J(A1-3.1・A1-3.2)の2種類実施 ・2種類を合計した平均で計上 | | | 40 | 50 | 60 | 65 | 70 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 32 | 35 | 37 | 34 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <p>英検合格者割合が低下した結果となった。全体のうち7割程度の生徒が4・5級受験を選択していることが関係していると推察され、低学年からの英検受験への意欲向上が課題である。</p> <p>グローバル教育全体としては、例年通り継続的に各事業が実施された一年であり、次年度への計画会議を民間企業も合わせて検討した年であった。</p> | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上~100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | ○ | C 目標達成率60%以上~80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今後の 取り組み の方向性 | ○ | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校：オールイングリッシュ授業のモデル実施 (特別非常勤講師制度の申請) ・こども園：英語イマージョン保育 ・地域活性化起業人制度等、英語スピーカーの雇用・トレーニング制度の検討 (質を維持した上で予算をおさえ、教育を継続できるシステム作り) | | | | |
| | | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

12

| | | | | | | | |
|---|---|----------------------------|-------------------|---|-----|---------|--------------|
| 基本方針 | | 2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実 | | | | | |
| 施策 | 2 グローバル視点の先端教育の推進 | | | | | | |
| 事業名 | ICT教育の推進 | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 2, 449 | R 5 | 4, 355 | R 6 | 11, 334 | 所管種別 学校教育 |
| 事業目的 | I C T環境の整備を進め、子ども達の学力向上やコミュニケーション能力・論理的思考力の育成を図る。 | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 1) 電子黒板導入 教員の業務の効率化や授業の幅を広げられるよう全ての小中学校に電子黒板の整備を行った。 2) ネットワーク機器更新 教育ネットワークを安定的に活用するため、平成28年度に導入した機器を新たなものに更新した。 | | | | | | |
| 成果指標 の状況 ※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値 | 成 果 指 標 名 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| | AI機器・タブレット・遠隔システム等活用 時間数（時間） | | 50 | 60 | 70 | | |
| | A Iドリル平均回答数 | | 70 | 219 | 116 | | |
| | | | | | 160 | 180 | 200 |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ※タブレット活用が有効な教科 国語 算数 生活 理科 社会 外国語 総合等 AIドリル平均回答数 103問 | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | |
| | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | B 目標達成率80%以上~100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | C 目標達成率60%以上~80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等 大幅な改善を要する) | | | | | | |
| ○ D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今後の 取り組み の方向性 | ○ | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 今後ICT支援員（デジタル人材派遣制度の活用）を 確保し、教職員の利活用に向けての研修を行い、 学習効率・スキル向上に努めていきたい。 | | | |
| | | 継 続 | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

13

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|--|-----|-------|------|------|
| 基本方針 | | 2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実 | | | | | | |
| 施策 | 2 グローバル視点の先端教育の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 子どもあゆみ活用事業 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 2,750 | R 5 | 2,928 | R 6 | 3,369 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 小学校の英語授業に英語推進員を配置することで、ALTを主とした授業展開を促進する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> ・小1～小6の英語授業にALT・英語推進員が全て出席できるようにプランを組む。 ・効率的な授業内容とするために毎週あるいは隔週でミーティングを実施する。 ・児童へ入学後スムーズに授業実施ができるよう、就学前において英語あそびを実施する。 ・各種イベントの準備・運営等のサポートを行う。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 英語授業等における配置希望 (英語推進員)と達成度(人) | | | 75 | 75 | 75 | 100 | 100 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 73 | 70 | 73 | 73 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> ・日雇い講師に入ってもらおう等、英語推進員の配置は十分でなかった。 (小5・6年生→1名 小3・4年生→1名 小1・2年生/就学前→日雇い講師・補充) | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | ○ | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | <ul style="list-style-type: none"> ・人数の確保と教育の質のバランスを考えながら、他のグローバルスタッフの状況を確認しながら、増員も含めて検討する。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

14

| | | | | | | | | |
|-------------------------|---|---|-------------------|---|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実 | | | | | | |
| 施策 | 2 グローバル視点の先端教育の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 英語検定補助 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 294 | R 5 | 228 | R 6 | 282 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 児童生徒の英語力及び学習意欲の向上を図るため、英語検定の補助を行う。 海陽町小中学生の英語力の把握を行い、英語事業を効果的に行う。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 公益財団法人 日本英語検定協会が実施する英語検定等を1年度につき1回分につき、 以下のとおり補助する。 ・小学校1年生～中学校3年生 全額補助 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| | 小6年における英検受験率%) | | | - | - | 10 | 15 | 20 |
| | 中1年における英検受験率%) | | | - | - | 6 | 16 | |
| | 中2年における英検受験率%) | | | - | - | 15 | 25 | 35 |
| | 中2年における英検受験率%) | | | - | - | 10 | 23 | |
| | 中2年における英検受験率%) | | | - | - | 20 | 35 | 50 |
| ※各年度の 数値は | | | 上段が目標値 下段が実績値 | | | | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> ・中1・中2全額補助を行ったことにより、大幅に受験率が向上した。 ・年2回の文化館受験の機会の増から小6についても大きく受験率が向上した。 ・小6(8名)、中1(11名)、中2(14名)が受験。 | | | | | | | |
| 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等 大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | |
| 今後の 取り組み の方向性 | ○ | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | <ul style="list-style-type: none"> ・公費受験が追加となったことにより、結果の収集等の 手続きを統一していく。 ・モデルクラス(海陽中1年生)では全員受験を目指す。 | | | | |
| | | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | 休 廃 止 | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

15

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|---|-----|--------|------|------|
| 基本方針 | | 2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実 | | | | | | |
| 施策 | 2 グローバル視点の先端教育の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | ALT派遣事業 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 15,364 | R 5 | 19,528 | R 6 | 22,354 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | ALT等を増やし、学校での英語授業や町の英語事業を充実させる。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 小・中学校の全ての英語授業にALTが参加できるように配置する。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 外国人スタッフ（ALT・CIR等） の人数（人） | | | 5 | 5 | 6 | 6 | 6 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 5 | 5 | 5 | 6 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | (ALTの配置) ・海南小学校・海部小学校1名 ・宍喰小学校1名 ・海陽中学校1名 ・宍喰中学校1名 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | ○ | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 1校に1名のネイティブ講師を配置できるよう計画していく。小学校でのネイティブによる授業、中学校での英語コース、各種英語事業を進めていくため、今後、安定的かつ質の高い英語教育、事業を実施する仕組みづくりを進めていく。 | | | | |
| | | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | 休 廃 止 | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

16

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-----------------------|---|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 3 地域と共創する教育力の向上 | | | | | | |
| 施策 | 1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上 | | | | | | | |
| 事業名 | 学校活性化協議会 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 248 | R 5 | 292 | R 6 | 297 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 海陽町教育委員会の権限と責任の下、海陽町内の各学校及び教育全般の諸課題について、学校運営の改善や児童生徒の健全育成及び町全体の教育内容の向上について取り組む。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 海陽学校活性化協議会の3つの役割 1. 各小中学校の学校運営協議会の要としての役割 2. 町全体の教育課題の協議する場としての役割 3. 土曜学習のまとめの場としての役割 ○組織は、小中学校長、小中PTA、有識者、町教育委員会等、計18名で構成 ○主な教育議題は、各小中学校の学校経営上の諸課題、海部高校魅力化推進、土曜学習の在り方等について | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 年間会議開催数（回） ・2ヶ月に1回の割合で | | | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 2 | 4 | 5 | 5 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ○年間会議5回(5月・7月・10月・11月・2月)を予定通り開催することができた。 ○各校とも各校運営委員との情報交換を計画的・日常的に行い、学校運営等に生かすことができた。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上~100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上~80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今 後 の 方 針 (Action) | 海陽学校活性化協議会運営の継続・発展及び海陽町の子どもや保護者・地域等の様々な教育課題について幅広く協議する場としての役割を果たしていく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | 休 廃 止 | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

17

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-----------------------|---|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 3 地域と共創する教育力の向上 | | | | | | |
| 施策 | 1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上 | | | | | | | |
| 事業名 | コミュニティスクールの充実・推進 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 190 | R 5 | 190 | R 6 | 190 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 保護者や地域住民が学校運営に参画する「学校運営協議会」制度の導入により、地域の力を学校運営及び児童生徒の育成に生かす「地域とともにある学校づくり」を推進する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 各学校・保護者・地域が一体となり、「地域とともにある学校づくり」の教育活動の基盤となる学校運営協議会の開催及び活性化を推進する。 ○各校コミュニティスクール年間計画の作成 ○各校年間3回の学校運営協議会の開催 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 学校運営協議会会議の開催回数（回） | | | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 1 | 2 | 3 | 3 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ○各校コミュニティスクール年間計画を作成し、学校活性化協議会での共通理解を図った。 ○各校計画案通り年3回の学校運営協議会が実施できた。また、学校行事(運動会・文化祭・学習発表会・入学式・卒業式等)ごとに運営委員に案内を出し、意見交換をした。 ○各校とも、学校と保護者・地域と学校運営や子どもの状況に関しての情報交換及び地域教育力を生かした活動が実践できた。 ○学校評価に委員の意見を反映させることで、学校関係者評価が効果的に実践され学校経営改善につながっている。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今 後 の 方 針 (Action) | 各校教育方針に沿った学校教育活動を地域の方々にご理解ご支援をいただきながら、持続可能な範囲で継続・発展させていく。また、各校学校運営協議会も計画通り開催し、子どもたちのために学校・保護者・地域の信頼関係や協働体制をさらに構築していく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

18

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 3 地域と共創する教育力の向上 | | | | | | |
| 施策 | 1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上 | | | | | | | |
| 事業名 | 土曜学習の推進 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 37 | R 5 | 21 | R 6 | 55 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 学校、家庭、地域社会が連携し、様々な体験活動を行うことにより、「主体性・生きる力」を育成する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ○小中高生を中心に据えた活動を通して、ふるさとを知り誇りを持つ子どもの育成。 ○地域の教育力(地域人材・教育資源等)を生かし、地域に根ざした体験活動や交流活動を行う。 ○子どもたちに関わることにより、地域人材・地域教材等の拡大等、地域活性化を図る。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 体験活動の年間実施回数(回) | | | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | 上段が目標値 下段が実績値 | | | 5 | 10 | 10 | 10 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 1. 学校と連携した事業 ①防災学習(小5年) ②文化財めぐり(小6年)・・・①②とも、3小学校合同実施。 2. 地域と一緒に活動した事業 「植物採集教室」「室内ゲーム大会」「海部川遊び」「星空観察教室」「科学体験教室」 他団体と「花かんむり」「海陽町の湿地とクモの観察」「松原海岸クリーン作戦と焼き芋」を 実施。「グローバルウィークエンド」はオールイングリッシュで、英語体験活動を実施。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 地域人材・教育資源等を生かし、自然・歴史・防災・科学・グローバル教育等、様々な体験活動を企画し、安全対策をとりながら実施していきたい。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

19

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|---|-----|---------|------|------|
| 基本方針 | | 3 地域と共創する教育力の向上 | | | | | | |
| 施策 | 1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上 | | | | | | | |
| 事業名 | 放課後子ども教室の運営 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 12, 523 | R 5 | 15, 119 | R 6 | 15, 633 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 放課後に児童を一時的に預かり、保護者に代わって地域住民である指導員が見守り役をすることで、児童の安全・安心な居場所の提供を推進する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 放課後に指導員のもと、町内の3小学校の児童が各地域で社会教育施設や学校施設などを活用した安全な環境で学習活動、校外活動などに取り組む。 ・対象 町内に在籍する小学校1～6年生 ・開所日 月曜日～金曜日（土日祝日、学校の長期休みは除く） ・時間 授業終了後～17時 ・利用料 年間800円（保険代） ・場所 海南：海南子ども館、海部：奥浦老人福祉センター、宍喰：宍喰小学校 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 3館の登録児童数（人） | | | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 215 | 217 | 221 | 207 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ・3館の登録児童数 207名 ・年間開所日 194日 ・学校や教室と月1回の話し合いの場以外でも、連絡を密に取ることで迅速な対応に努めた。 | | | | | | | |
| 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 登録人数からも分かるとおり、放課後子ども教室は日中保護者が働いている家庭などの受け皿として、必要な場所となっている。また児童にとっても他学年との交流の場となっている。しかしながら、指導者の高齢化に伴い体験教室の減少と、地域とのつながりが薄れていることが課題となっている。地域住民の方々が講師を務める教室は交流の場として、成果を上げていると考えるため、今後も地域や外部団体と連携し、積極的に開催していきたい。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

20

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|--|-----|-------|------|------|
| 基本方針 | | 3 地域と共創する教育力の向上 | | | | | | |
| 施策 | 2 豊かな心と体の育成 | | | | | | | |
| 事業名 | インクルーシブ教育の推進 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 3,091 | R 5 | 3,307 | R 6 | 4,169 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 障がいの有無によらず、児童生徒ができるだけ同じ場で共に学ぶことを目指す。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の苦手さに合わせた柔軟な選択ができるよう、通級指導教室を設置する。 将来を見越し、集団の中でもスムーズに活動できるよう、特別支援学級・通級指導教室内で自立活動やソーシャルスキルトレーニングを実施していく。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 通級指導教室・連絡会(回) | | | - | - | 2 | 3 | 3 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | - | - | 2 | 2 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> 県設置となったが、町設置の際に実施していた町費教員を継続してサポート雇用する。 連絡会を実施し、状況の把握を行った。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | <ul style="list-style-type: none"> 通級指導教室については目標達成したと考えられる。他目標を設定していくことが必要と考えられる。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

21

| | | | | | | | | |
|--------------------------------------|--|---|-------------------|---------------------------|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 3 地域と共創する教育力の向上 | | | | | | |
| 施策 | 2 豊かな心と体の育成 | | | | | | | |
| 事業名 | SC・SSW活用 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | - | R 5 | 415 | R 6 | 632 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | いじめや不登校、虐待等、児童生徒や家庭の課題に対して、相談活動を実施したり、支援機関と連携することで、それらを解決・改善することを目的とする。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> ○スクールカウンセラー 宍喰中学校区（宍喰中学校・宍喰小学校）1名 海陽中学校区（海陽中学校・海南小学校・海部小学校）1名 ○スクールソーシャルワーカー 海陽町内小中学校 1名 ○町相談員（公認心理士）1名 上記のように各校に配置し、相談事業を実施する。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値 | スクールカウンセラー | | | - | - | 100 | 100 | 100 |
| | スクールソーシャルワーカー 巡回相談員活用校の割合（%） | | | - | - | 100 | 100 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> ・各校ともスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・巡回相談員の利用があった。 ・高校への継続利用として、町相談員だけでなく、これまで繋がりのあったスクールカウンセラーの利用ができるよう調整を行った。 ・スクールソーシャルワーカーについては福祉部門との役割分担が十分にできていない様子がみられた。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ・町の福祉部門と学校SWとの連絡会を実施していく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | 休 廃 止 | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

22

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|------|------|------|------|
| 基本方針 | | 3 地域と共創する教育力の向上 | | | | | | |
| 施策 | 2 豊かな心と体の育成 | | | | | | | |
| 事業名 | 人権教育の推進 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 人権尊重の精神の寛容を図り、人権が共存する社会を築くため、学校・家庭・関係機関等と連携して、時代の変化に応じた人権教育・啓発活動を推進する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 学校の人権教育を充実させるためには、人権教育で育てたい資質・能力（知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面）を明確にし、各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間、特別活動等との関連を図った教育課程を編成する。そして、目標やねらいが達成できるように、指導内容や学習活動を互いに結び付け、効果を高めることができるように実践していく中で、人権や人権課題についての学習（人権学習）を行い、人権に関する知的理解の深化と人権感覚の育成を図る。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 全国学力・学習状況調査において「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合（%） | | | 74 | 75 | 77 | 78 | 80 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 83 | 96.8 | 97.9 | 89.1 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 全国学力・学習状況調査において「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合。 小学校 95.8% 47人 中学校 80.0% 35人 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 今後も学校の人権教育を充実させるために、学校・家庭・関係機関等と連携して、時代の変化に応じた人権教育・啓発活動を推進していく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

23

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|-------|-------|-------|------|
| 基本方針 | | 3 地域と共創する教育力の向上 | | | | | | |
| 施策 | 2 豊かな心と体の育成 | | | | | | | |
| 事業名 | 食育の推進 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 様々な学習や体験活動を通して、食に関する関心や理解を高め、子どもの健全な食生活の実現と豊かな人間形成を図る。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> ・「海陽町学校食育推進委員会」を開催する。 ・地場産食材を使用した学校給食の日の献立を通して、子どもたちの地域の農林水産物や産業への理解を深め、郷土への愛着を深める。 ・食生活アンケートの実施や県食育推進パワーアップ作戦の授業を実施し、食育の推進を図る。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | 「海陽町食生活アンケート」より朝食を毎日食べる児童生徒の割合 (%) | | 90.0% | 90.0% | 90.0% | 90.0% | 90.0% | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | 83.8% | 81.5% | 84.2% | 84.3% | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> ・「海陽町学校食育推進委員会」を6/24に開催。 ・海陽の食材を味わう日（毎月19日）に海陽町産食材を使った学校給食献立を実施。広報として「給食だより」を利用し、QRコードを記載するなど、生産者の顔及び食材の情報が見えるように工夫した。 ・食生活アンケートを実施。（7月） ・徳島県学校食育推進パワーアップ作戦で町内の該当学年で同じ学習内容を教諭等と栄養教諭によるTT授業で実施。また、パワーアップ作戦の対象でない学年においても、給食の時間などを活用した栄養教諭による食に関する指導を進めた。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 食生活アンケートの結果をふまえて、望ましい食習慣・食生活を見直すとともに、QRコードなど画像を使って地域の産物を理解し、食への感謝の気持ちを育むように引き続き努める。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

24

| | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|--|-----------------------|----------|----------|----------|--|
| 基本方針 | | 3 地域と共創する教育力の向上 | | | | | | | |
| 施策 | 2 豊かな心と体の育成 | | | | | | | | |
| 事業名 | 学校給食の充実 | | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 67,867 | R 5 | 76,829 | R 6 | 79,231 | 所管種別 | 学校教育 | |
| 事業目的 | 児童生徒が地域への愛着や農業への興味・理解を深め、食に対する正しい考え方を身につけるために、安全・安心な地場産物を活用した給食の提供を推進する。 | | | | | | | | |
| 主な事業内容 (Plan) | 安心安全な地場産物を取り入れた魅力のある給食を提供する。 | | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | 学校給食における地場産物活用率 (%) | | | 県活用率平均以上 | 県活用率平均以上 | 県活用率平均以上 | 県活用率平均以上 | 県活用率平均以上 | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 58.2% | 55.4% | 56.5% | 56.2% | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 海陽町の食材を味わう日として毎月19日を「食育の日」としている。 ●令和6年度学校給食における地場産物・国産食材の使用状況調査結果 | | | | | | | | |
| | 県活用率(平均) | | 海陽町活用率(平均) | | (参考) | | | | |
| | 地場産物 | 国産食材 | 地場産物 | 国産食材 | 徳島県食育推進計画(第4次)における目標値 | | | | |
| 6月期 | 59.3% | 89.1% | 50.8% | 89.4% | 学校給食に地場産物に活用する割合 65% | | | | |
| 11月期 | 59.5% | 92.1% | 61.6% | 92.8% | 学校給食に国産食材を活用する割合 85% | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上~100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上~80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 引き続き調理業務を委託している業者と連携を図りながら、安全安心な給食の提供を行っていきたい。今後も地場産物を積極的に利用し、活用率の向上を目指すよう努める。 | | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

25

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|--|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 3 地域と共創する教育力の向上 | | | | | | |
| 施策 | 2 豊かな心と体の育成 | | | | | | | |
| 事業名 | いじめ・不登校防止 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | - | R 5 | - | R 6 | 0 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 多様化するいじめ・不登校問題についての予防対策を行う。また、問題が発生した場合には解決のための取組を実施する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 不登校対策協議会を立ち上げ、学校・専門職（SC・SSW等）・民間事業所と学校に行きづらい児童生徒についてのサポートを行う。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 不登校対策協議会の開催(回) | | | - | - | 0 | 1 | 3 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | - | - | 0 | 0 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> ・SC・SSW・相談員が定期的・臨時的に相談を実施した。 ・令和7年度からのSW連絡会（不登校対策協議会）の立ち上げを検討。 | | | | | | | |
| 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | |
| | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | | |
| | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | | |
| | ○ | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | <ul style="list-style-type: none"> ・SW協議会の立ち上げを行い、関係機関に参加してもらい児童生徒の情報共有や対策についての会議を行う。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

26

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 3 地域と共創する教育力の向上 | | | | | | |
| 施策 | 2 豊かな心と体の育成 | | | | | | | |
| 事業名 | 定期補導活動 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 補導活動を計画的に実践し、学校や関係諸機関との連携を深め、青少年の健全育成と非行防止活動に取り組む。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | (1) 地域や関係機関との密接な連携を図り、日常の実践活動に活かす。 (2) 学校行事や地域の行事等に参加し、子どもの実態把握に努める。 (3) 地域の非行防止活動を推進する。 (4) 補導員の資質向上と必要な知識・技能の習得のため、各種大会及び研修会に参加する。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 町内補導員の人数（人） | | | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 21 | 21 | 21 | 21 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ①年間活動計画に沿って、補導活動が計画どおり実施できた。 ②補導活動を通じて、地域や関係諸機関との、交流・コミュニケーションを取ることができた。 ③各学校の協力により学校行事へ参加し、学校・生徒の様子や実態把握ができた。 ④青少年町民育成会議では、各学校と関係機関との連絡調整ができた。 ⑤地域や各機関等の協力により、地域の安心・安全な町づくりに貢献できた。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | (1) 地域や関係機関との連携を図り、地域のために貢献する。 (2) 地域や学校行事等に積極的に参加し、子ども・地域の動向を把握する。 (3) 安心・安全な地域づくりに貢献する。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

27

| | | | | | | | | |
|-------------------------|---|---|-------------------|---|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 3 地域と共創する教育力の向上 | | | | | | |
| 施策 | 2 豊かな心と体の育成 | | | | | | | |
| 事業名 | 青少年健全育成活動の推進 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 51 | R 5 | 57 | R 6 | 137 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 青少年健全育成の推進のため、地域ぐるみでの健全育成への取り組みを図り、家庭、地域の連携を通じた青少年の健全育成や、様々な奉仕・体験活動を通じた地域健全育成活動を推進する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ○防災学習 8/21（宍喰小・海部小・海南小5年生）南部防災館：昭和南海地震・津波の講話、フィールドワーク、防災実技 ○文化祭こども俳句作品発表（町文化祭期間中に応募作品展示） ○文化財めぐり 8/23（宍喰小・海部小・海南小6年生）博物館内学習、大里古墳、大里八幡神社、浪切不動尊、宍喰浦の化石漣痕、八坂神社 他 ○補導員活動（毎月各地区に応じた活動を実施）※海部・海南地区と宍喰地区で各定期補導を実施 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 文化財めぐりと防災学習の実施回数（回） | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ○防災学習（町内3小学校5年生対象）を1セットで、上記の日時に実施した。 ○文化財めぐり（町内3小学校6年生対象）を1セットで、上記の日時に実施した。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超（目標を超えて達成している） | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%（目標を達成、もしくは概ね達成している） | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満（目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する） | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満（目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する） | | | | | | | |
| 今後の 取り組みの 方向性 | | 拡 充 ○ 継 続 縮 小 見 直 し 休 廃 止 | 今後の方針 (Action) | 児童・生徒を見守っていってもらえるような効果的な取り組みを行っていきたい。今まで以上に、家庭・学校・地域との連携を図り、《共に育む、豊かな心と生きぬく力》を基本理念に青少年の育成を目指していく。 | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

28

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 3 地域と共創する教育力の向上 | | | | | | |
| 施策 | 2 豊かな心と体の育成 | | | | | | | |
| 事業名 | 学校教育における福祉教育の充実 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | すべての人がかけがえのない存在として尊ばれ、差別や排除されたりすることなく社会生活の中でともに支えあい、一人ひとりが生きる喜びを感じることができるよう、「ともに生きる力」を育むことを目標とした教育を推進する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校で認知症サポーター養成講座を開催 ・小・中学校で福祉体験学習 (車イス体験・アイマスク体験・介護ロボット体験・手話体験・要約筆記体験) ・世代間交流 ・福祉教育・ボランティア活動連絡会を年1回開催（海陽町社会福祉協議会と学校担当者） | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 総合的な学習の時間において福祉に関する 学習の回数（回） | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 1 | 1 | 1 | 2 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 令和6年度認知症サポーター養成講座実績 ・海南小学校 R7. 2. 6 5年生13名 教員 2名 ・海部小学校 R7. 3. 6 5年生 9名 教員 1名 ・宍喰小学校 R7. 3. 5 5年生11名 教員 1名 ・海陽中学校 R6. 11. 8 1年生29名 教員 5名 ・宍喰中学校 R6. 6. 18 1年生16名 教員 4名 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ○ともに学び、つながり、生活を見つめる力を育てるために、協働的な学習活動が活発になるよう、ねらいを明確にした教育を推進する。 ○児童・生徒が学校で学んだ知識や技術を進んで社会に提供し、将来にわたって地域福祉を進める主体となっていけるように意識・意欲をめざめさせることをねらいとしている。 ○引き続き小・中学校において認知症サポーター養成講座・福祉体験および外国出身者に対する日常生活のサポート講習会を開催する。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

29

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|---|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | |
| 施策 | 2 学校経営の充実 | | | | | | | |
| 事業名 | 児童生徒の生活習慣の改善 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 学校教育 |
| 事業目的 | 子どもに関する相談について、助言・指導の実施や、学校と行政との連携により相談支援体制を整えることで、児童虐待の発生予防、子どもの最善の利益の保障と、安心安全な暮らしを守る。また、児童虐待防止に向け、人材育成および支援体制の強化を図る。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 海陽町母子保健連絡協議会を調整機関として、児童生徒の情報の集約、多機関連携のためのネットワークの強化を図る。生活習慣病予備軍の減少。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 養護教諭と保健師の情報交換等の回数 (回) | | | 1回 | 2回 | 2回 | 2回 | 2回 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 2回 | 2回 | 2回 | 2回 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> ○連絡協議会を2回実施 ○子どもの肥満についての勉強会（血糖値、糖尿病予防について）海南小・海部小・穴喰小 ○小学5年生中学2年生に心のアンケートを実施 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | <ul style="list-style-type: none"> ○小学5・6年生中学校全学年に血液検査を実施し、コレステロール・尿酸・中性脂肪が基準値を超えた児童・生徒保護者に対して、保健師や養護教諭が正しい生活習慣を身につけられるよう指導する。 ○中学校での肥満傾向生徒の個別指導を実施する。また保健師による生活習慣病予防教室を実施する。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

30

| | | | | | | | | |
|-------------------------|---|---|-------------------|--|-----|-------|------|------|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 1 生涯学習の振興 | | | | | | | |
| 事業名 | 生涯教育の振興と充実 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 2,072 | R 5 | 3,688 | R 6 | 2,426 | 所管種別 | 生涯教育 |
| 事業目的 | 子どもや成人、高齢者や障がい者など、地域住民の興味・関心に応じた各種多様な教室の開催や普及啓発を通して、学習・学びの機会を提供し、生涯教育の振興と充実を図る。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 工芸館の体験事業（木工・染色・ワークショップ）、成人大学、生涯学習オンライン講座 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 開講講座数3講座増（回） | | | 8 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 8 | 8 | 9 | 11 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 1. 木工体験 2. 藍染体験（4-11月） 3. 染色教室（谷育子先生） 4. 成人大学 5. 貝殻ワークショップ 6. 箸作り体験 7. 流木モバイル作り体験 8. 茜染体験（12-3月） 9. マリーゴールド染体験 10. 草木染めをいちから学ぼう 11. 生涯学習オンライン講座（7講座） | | | | | | | |
| 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上~100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上~80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | |
| 今後の 取り組みの 方向性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 現在の開講数を維持出来るように努めながら、地域住民の興味・関心に応じた新しい企画も検討する。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

31

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|--|-----|--------|------|------|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 1 生涯学習の振興 | | | | | | | |
| 事業名 | 公民館活動 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 15,865 | R 5 | 44,880 | R 6 | 13,288 | 所管種別 | 生涯教育 |
| 事業目的 | 地域の教育資源を活用し、地域づくりに主体的に参画しようとする人づくりを進めるために、地域拠点である公民館機能の強化、公民館活動の充実を図るための支援を行う。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> ・盆踊り（四方原公民館） ・共楽運動会（宍喰・海部・川東・浅川の4地区が実施で川上は平井のみ実施） ・秋祭り（久尾公民館） ・交流球技大会（交流グラウンドゴルフ大会） ・左義長（松原公民館） ・左義長（伊勢田下公民館） ・公民館大会 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 交流グラウンドゴルフ大会と公民館大会を 合わせた参加率10%増（%） （令和「4」年度に成果指標の見直し） | | | - | - | 5 | 7 | 10 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | - | - | 9 | 22 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> ・交流グラウンドゴルフ大会【申込人数：R4 85人、R5 76人、R6 65人】 ・公民館大会【アンケート提出人数：R4 96人、R5 122人、R6 157人】 ・合計人数【R4 181人、R5 198人、R6 222人】 <p>令和6年度は、公民館大会に当年度中国・四国地区社会教育研究大会徳島大会で基調講演された講師をタイムリーに招くことができ、参加率の大幅な増につながった。</p> | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | R6 | | | | | | | |
| | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 公民館機能が発揮され、公民館活動の活性化、発展につながるよう に支援していく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

32

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|--|-----|-------|------|------|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 1 生涯学習の振興 | | | | | | | |
| 事業名 | 伝統文化継承・地域活性化等補助金 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | — | R 5 | 1,746 | R 6 | 1,916 | 所管種別 | 生涯教育 |
| 事業目的 | 町民の自主的な地域活動の促進を図るため、伝統文化継承や地域活性化につながる社会教育活動、又は地域的な共同活動（以下「地域活動」）を行う分館に対して、その活動に要する経費の一部を補助する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 【事業区分】 ①伝統文化継承・地域活性化（9分館実施） ・盆踊りや左義長の用具の整備 ・秋祭りの用具の整備等 ・こいのぼりを活用した地域活性化 ②地域的な共同活動（29分館実施） ・環境整備活動 ・防災訓練に必要な備品購入 ③その他（6分館実施） ・避難所運営訓練 ・高齢者や子どもなどが集まり易い施設の軽微な環境整備 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | 実施した分館の率40%➡60%➡65% ※全90分館 | | — | — | 40 | 60 | 65 | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | — | — | 43 | 49 | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 令和5年度からの新規事業である。地区公民館によって、事業の周知にバラつきが見られ、12月を超えても申込を認めるようにした。目標値には届かなかったが、申込期限を延ばしたことで、初年度よりは増えた。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上~100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上~80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 ○ 継 続 縮 小 見 直 し 休 廃 止 | 今後の方針 (Action) | それぞれの地域に根差した分館活動の活性化を推進するために、目的に掲げた社会教育活動や共同活動を支援していく。 | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

33

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|-----|--------|------|-----------|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 1 生涯学習の振興 | | | | | | | |
| 事業名 | 社会教育施設の充実（公民館・体育施設も含む） | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 108,447 | R 5 | 14,875 | R 6 | 39,342 | 所管種別 | 文化・スポーツ振興 |
| 事業目的 | 海南文化村・公民館・体育施設等の町社会教育施設の維持管理や利用促進に努め、地域住民の自主的な社会教育の推進・充実を図る。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 町社会教育の拠点施設である海南文化村を中心に、公民館施設や体育施設などの維持管理や利用促進に努め、住民が社会教育活動へ参加しやすい環境づくり等に取り組む。 阿波海南文化村がDMVの始発駅であるため、各施設において来場者が利用しやすい環境づくりに、引き続き取り組む。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | 社会教育施設の点検回数 | | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | 1 | 2 | 2 | 2 | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 巡回・点検及び修繕等を行うことにより、各施設（設備）の機能を適正な状態に維持管理し、運転機能の確保を行う。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 社会教育施設の維持管理や利用促進等に努め、地域に根ざした社会教育活動拠点の充実を図る。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

34

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|--|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 1 生涯学習の振興 | | | | | | | |
| 事業名 | 地域づくりに取り組む人材や団体の育成 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 生涯教育 |
| 事業目的 | 地域住民が主体となって生涯学習を継続的に推進することができるよう、人材や団体の育成に努める。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 町または町内団体(公民館・婦人会・文化協会など)による活動・研修 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | 生涯学習の充実を図るための人材・団体育 成集会（回） | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | 3 | 4 | 4 | 4 | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 婦人会による研修会などの実施 4回(運動会・人権学習会・マリーゴールド染め体験・グラウンドゴルフ大会) | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 地域の担い手が今後減少することを踏まえ、新たな担い手の創出のために育成の場やきっかけの場を町全体で用意していくことが必要となる。また自らが学べる場所の創出も必要となる。 具体例として、文化館ホールの音響や照明の操作ができる人材を創りたい。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

35

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|---|-----|------|------|------|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 1 生涯学習の振興 | | | | | | | |
| 事業名 | グローバルな人材の育成（ALT・CIRの活躍） | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 498 | R 5 | 790 | R 6 | 1041 | 所管種別 | 生涯教育 |
| 事業目的 | 児童生徒を含めた町民が国際的視野を持つためにイベント等を実施する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流イベント・講座の実施 ・英語や海外文化を学習するためのホームページ・動画作成 ・町の中で英語に触れられるよう英語標記の設置 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | イベント・講座等の実施回数 (回) | | | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 3 | 19 | 37 | 45 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> ・英語イベント（ハロウィン・Global Weekend等）7回／地域イベント（ほたるまつり）1回 ・グローバルカフェ 30回 ・地域活動（いきいきサロン）7回 ・HP(Global Kaiyo)活用 ・翻訳業務…レストランメニュー（日愛うどん・ごち） DMVパンフレット・観光協会HP等 | | | | | | | |
| 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等 大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントの実施回数とスタッフの負担を考え、無理なく継続できるように調整していく。 ・地域での活動がグローバル教育の中でどのような役割を持つのか検証し、見通しのある計画にしていく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

36

| | | | | | | | | |
|-------------------------|---|---|-------------------|--|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 1 生涯学習の振興 | | | | | | | |
| 事業名 | 地域における福祉教育の充実 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 生涯教育 |
| 事業目的 | 児童生徒の健全な育成を進めるとともに、地域住民の学びを通じて地域福祉の推進を図る。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター研修 ・思春期講演会 <p>上記 研修会等がスムーズに実施できるよう、教育委員会より支援する。</p> | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | 福祉教育の講座やイベントの開催数 (回) | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | 5 | 8 | 8 | 11 | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> ・各中学校において、認知症サポーター研修を実施した。(小3回・中2回) ・保護者向けに実施した生き心地のよい町アンケートの報告会を実施した。(1回) <p>(実施主体：長寿福祉人権課・子どもあゆみ保健課)</p> | | | | | | | |
| 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | |
| 今後の 取り組み の方向性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ○母子保健連絡会等に参加し、福祉部門と情報共有を行う。 ○引き続き、小・中学校で認知症サポーター養成講座、体験学習を開催する。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

37

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 1 生涯学習の振興 | | | | | | | |
| 事業名 | 挨拶や声掛けによる教育の充実 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 30 | R 5 | 30 | R 6 | 30 | 所管種別 | 生涯教育 |
| 事業目的 | 学校教育に対して、住民や保護者が協力したいことと、教職員が地域に求めていることの主な共通点の中に挙げられている「登下校の見守り・声かけ」を推進し、日常生活における底辺からの教育環境の充実を図る。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ○スクールガードリーダー及び学校が年間を通して、挨拶や声掛けによる教育を行っている。 ○海陽町少年を非行から守る母の会も、挨拶や声かけを随時行っている。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 地域におけるあいさつ運動の実施率 (%) | | | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ○スクールガードリーダー及び小学校が一年間、挨拶や声かけを行った。 ○海陽町少年を非行から守る母の会も、挨拶や声かけを随時行った。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 家庭教育で重視していることの最上位に「あいさつや行儀、礼儀作法」が挙げられている。小・中学校の教育に対して協力したいこと、また地域に協力してほしいことにおいて「登下校の見守り・声かけ」が上位に挙げられているように、児童生徒の健全育成に欠かせない挨拶や声かけは、今後とも推進することが必要である。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

38

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|--|-----|-------|--------------|-----|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 海陽町文化協会 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 409 | R 5 | 771 | R 6 | 1,412 | 所管種別 生涯教育 | |
| 事業目的 | 本会は、海陽町に所在する芸術文化団体相互の連絡を密にし、芸術文化の高揚に努めるとともに、町民文化の融和と交流を図り、豊かな郷土文化の創造と発展に寄与する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ○海陽町文化協会ギャラリー（作品展示）／場所：工芸館第2工房 7月【俳句】8月【水墨画】9月【水墨画】11月【染色】1月【写真】2月【写真】 ○海陽町文化協会祭（作品展示）／阿波海南文化村（海南文化館・工芸館）（5/3～5/6） ○海陽町文化協会祭（芸能発表会）／阿波海南文化村（海南文化館ホール）（6/23） ○視察研修旅行／石山寺（滋賀県大津市）・幻住庵（滋賀県大津市） ○海陽町文化協会誌『海陽文化』第四号刊行（250部印刷） | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 団体会員ギャラリー作品展示会の開催数 (回) | | | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 8 | 10 | 8 | 6 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ○海陽町文化協会ギャラリー（作品展示）は、基準値を設定した令和元年度当初は1団体当たり、2月毎にローテーションして全6回としたが、本年度は1団体当たり、1月毎にローテーションし、6回実施した。 ○開催数は目標値に達した。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 会員の高齢化が進み、会員内部から事業縮小の意見が出始めている。今後、事業の取捨選択について十分話し合い、本会の目指すべき方向性を共有する必要がある。(例)芸能大会については年間に、会員として出場する文化協会祭以外にも、文化祭、公民館大会にも出場の機会があり、縮小の具体化を検討していきたい。海陽町文化協会祭芸能発表会の舞台照明や音響は、主催者側から外部委託をするか、あるいは希望する会員等に研修を受けてもらい、主催者側で役割分担してもらいたい。 | | | | |
| | | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | ○ | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

39

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|--------|--------|--------|--------|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 文化館の運営の充実 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 59,583 | R 5 | 65,648 | R 6 | 56,074 | 所管種別 | 生涯教育 |
| 事業目的 | 教育・文化・生涯学習活動の推進を図ると共に、各種イベントなどを企画し文化館の利用促進と町民文化の振興に寄与する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 文化協会祭、文化村まつり、文化祭、成人式、公民館大会、映画上映会、生涯学習講座等、各種イベントを開催し、地域の活性化と共に魅力ある町づくりに寄与する。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 年間利用者数（人数） | | | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 4,482 | 8,580 | 11,263 | 10,917 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 各種イベントが順調に開催され、文化館の利用がコロナ前のように活発になって来た事により目標を達成する事が出来た。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | ○ | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 今まで開催してきたイベント等だけでなく、生涯学習の充実や魅力ある講座など新しいものを取り入れる事により、文化館の利用促進につなげ、目標達成、拡充に努める。 | | | | |
| | | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

40

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|--|-----|--------|------|------|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 博物館の運営の充実 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 2,890 | R 5 | 11,314 | R 6 | 11,653 | 所管種別 | 生涯教育 |
| 事業目的 | 海陽町の文化・歴史、または芸術に興味関心を持っていただくための事業。 海陽町の文化財、他市町村や他県の文化財との比較や関連性を取り上げて企画展を開催する。 他にも、関連イベントやワークショップ、出張講演や講演会等も含める。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ○年3回の企画展開催 ○企画展関連イベント（各企画展につき1～3回程度） ○年3回の海部自然・文化セミナー（徳島県立博物館との共催事業） ○年3回の古文書の読み方講座 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 年間イベント開催数 | | | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 8 | 11 | 16 | 15 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 博物館のイベントは「企画展」3回、「企画展関連イベント」4回、海部自然・文化セミナーと古文書の読み方講座はそれぞれ3回ずつ開催。その他にも「歴史講演会」を1回開催、みなみ阿波観光局主催でコラボツアーを1回実施し、合計15回のイベントを開催した。講座・セミナーについて、座学だけでなくフィールドワークなどを組み込んだ内容にしたり、土曜学習担当に協力を要請し学校への広報を強化するなどして、以前より参加してくれる方以外にも子どもの参加が増えた。 多良古墳群の発見によりイレギュラーな活動結果となったが、多くの町民が多良古墳群の調査の進展に興味をもってきていることから、今後も啓発活動を続け、調査内容を適度に発表できるような年間計画を立てていきたい。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ・企画展を目的とした来館者を増やすことを目標に、企画展内容や実施するイベントについて精査して計画を立てていく。 ・毎年行っている好評なセミナー・講座については引き続いて継続を行う。 ・感染症対策で試みたオンライン配信など、便利なものは引き続き実施していく。 ・多良古墳群の調査結果の発表や、関連するイベントの実施を行っていく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

41

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|---|-----|--------|------|------|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 図書館の運営の充実 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 33,074 | R 5 | 51,566 | R 6 | 54,508 | 所管種別 | 生涯教育 |
| 事業目的 | 図書や資料などを収集・整理・保存するとともに、館内展示や各種イベント、移動図書館車の活用など図書に触れる機会を企画・運営することで、地域住民の読書活動や情報提供を推進する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 1. 貸出業務（館内貸出、相互貸借、移動図書館、団体貸出、学校行間貸出） 2. レファレンスサービス 3. 予約・リクエストサービス 4. コピーサービス 5. ホームページ運営 6. ブックスタート事業 7. マガジンリサイクル 8. 特設コーナー設置 9. しゃべらん会読み聞かせ 10. 海部公民館まちライブラリー 11. 阿南図書館電子書籍貸出協力 12. 阿南・那賀・海部定住自立圏事業の促進 13. 学校図書館システム支援 14. おはなし会開催 15. 植物教室開催 16. 名付けの会・工作教室開催 16. 人権学習会開催 17. 絵画等作品展示 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 町民一人における年間平均貸出冊数（冊） | | | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 9.6 | 9.0 | 8.3 | 8.7 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ・貸出状況 貸出総冊数 70,450冊（5年度 75,595冊） 1人あたり貸出冊数 8.7冊（5年度 8.3冊） | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超（目標を超えて達成している） | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%（目標を達成、もしくは概ね達成している） | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満（目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する） | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満（目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する） | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 貸出総冊数は、減少傾向にある。その要因として、スマホの普及による活字離れや高齢化による利用者の減少が考えられる。今後は拡視聴覚資料の充実やデジタル絵本の活用等、読書バリアフリーの充実に努めるほか、若い世代向けの企画など検討したい。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

42

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|-----|-------|--------------|-----|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 文化館自主事業 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 1049 | R 5 | 1,232 | R 6 | 1,604 | 所管種別 生涯教育 | |
| 事業目的 | 学校や地域、関係機関と連携を図り、優れた芸術・文化を鑑賞する機会を提供することで、地域住民の自主的な文化・芸術活動の推進を図る。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> ・文化村まつり（ボルダリング体験、ぬいぐるみ制作ワークショップなど） ・映画上映会（「古の王子と3つの花」「悪は存在しない」「銀河鉄道の父」） ・児童演劇巡回公演 ・吉川よしひろチェロコンサート ・ラジオ深夜便のつどい ・出張！なんでも鑑定団 in 海陽 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 自主事業開催数 行事回数2回増（回） | | | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 3 | 4 | 7 | 8 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> ・文化村まつり（ボルダリング体験、ぬいぐるみ制作ワークショップなど） 約1000人 ・映画上映会（「古の王子と3つの花」「悪は存在しない」「銀河鉄道の父」） ・児童演劇巡回公演 約350人 ・吉川よしひろチェロコンサート 約150人 ・ラジオ深夜便のつどい 約250人 ・出張！なんでも鑑定団 in 海陽 約420人 | | | | | | | |
| 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 今後も海南文化館のホール設備を活かしたイベントを企画し、優れた芸術・文化を鑑賞する企画を提供する。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

43

| | | | | | | | | |
|-------------------------|--|---|-------------------|------------------------------------|------|------|--------------|------|
| 基本方針 | | 4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実 | | | | | | |
| 施策 | 2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 阿波海南文化村祭 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 660 | R 5 | 818 | R 6 | 960 | 所管種別 生涯教育 | |
| 事業目的 | 海陽町文化協会祭と合わせて開催し、町の歴史や文化遺産を活用した各種イベントを実施することで、町内外の参加者に郷土の歴史・文化などの普及啓発を図る。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ゴールデンウィークに子どもを対象としたイベント「文化村まつり（公演、縁日、防災体験、移動図書館など）」を実施する。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 来場者数 イベント参加率20%増 (人) | | | 1200 | 1200 | 1200 | 1200 | 1200 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 20 | 1000 | 1000 | 1000 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 5月3日に映画「古の王子と3つの花」の上映、5月4日にボルダリング体験やぬいぐるみ制作ワークショップをメインの出し物とした野外イベントを実施し、約1000人の来場があった。 | | | | | | | |
| 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | |
| 今後の 取り組みの 方向性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 今後も子どもが喜ぶ出し物を考案し、5月の大型連休にあわせて実施する。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

44

| | | | | | | | | |
|----------------------------|--|---|-------------------|--|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 5 地域ぐるみで生き抜く力をつける | | | | | | |
| 施策 | 1 主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底 | | | | | | | |
| 事業名 | 防災教育の推進 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 58 | R 5 | 60 | R 6 | 42 | 所管種別 | 防災教育 |
| 事業目的 | 学校における防災教育の充実を図り、災害が発生した場合に、自らの身を自らで守れるよう児童生徒の防災力を育む。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ○地震等の災害を防止軽減するための時間帯に応じた具体的な対処行動を避難訓練を通して、児童生徒によく理解させ、しっかり身につけさせる。 ○毎年学校防災管理マニュアルの見直しを図るとともに、年間計画に、防災計画、避難訓練を位置づける。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | 学校における防災訓練の年間実施回数 (回) | | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | 5 | 6 | 5 | 5 | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ・地震・津波・火災発生時の対応訓練の実施 ・水難救助訓練の実施。（人工呼吸・AEDの使い方） ・消火訓練の実施。（消火器の使い方・煙体験） ・町防災避難訓練への参加。（12月実施） | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 みの 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ○防災訓練実施にあたり、学校・地域等の実情に応じて、可能な限り地域等と連携した総合的な訓練を行うよう指導していく。 ○自分たちのくらしや命を守るための自治体の取り組みについて理解を深めたり、体験を通して災害の怖さを理解することができた。自分の命は自分で守れるよう継続的な防災訓練等を積み重ねていく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

45

| | | | | | | | | |
|----------------------------|--|---|-------------------|---|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 5 地域ぐるみで生き抜く力をつける | | | | | | |
| 施策 | 1 主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底 | | | | | | | |
| 事業名 | 子どもあゆみ活用事業 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 200 | R 5 | 250 | R 6 | 317 | 所管種別 | 防災教育 |
| 事業目的 | 安心して子どもを生き育てることができる環境づくりの一環として、防災教育に関する事業を実施する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 今後発災が予測される南海トラフでの大地震などに備え、「命を守る」ことを学ぶために学校を中心とした防災教育を行う。 ・防災食の備蓄 ・防災学習（野外体験活動）他 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 町教委主催の防災教育の実施回数（回） | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 1 | 2 | 1 | 2 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 海陽町防災訓練12月15日（日）に合わせて栄喰小学校防災デーを開催した。登校時を想定し、大津波警報の町内放送で各地区の避難所に避難をした。訓練終了後は、保護者と一緒に出前授業に取り組み、保護者と防災食の実食を行った。 また、海南小学校6年生、海部小学校6年生を対象に防災講座及び炊き出し体験としてハイゼット米・カレーの調理、実食を行った。 | | | | | | | |
| 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 みの 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ○保護者の参加により、保護者の防災への関心が高まった。また、地域の方々に教わったり、家族で話し合ったりする機会をもつことで、地域全体の安全に対する理解が深まった。 ○ 防災教育は、地域・家庭・学校が一体となって取り組むことに意味があり効果がある。今後も地域や保護者・学校と協力しながら、訓練や研修を実施していく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

46

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 5 地域ぐるみで生き抜く力をつける | | | | | | |
| 施策 | 1 主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底 | | | | | | | |
| 事業名 | 東日本大震災の教訓復興教育 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 58 | R 5 | 60 | R 6 | 42 | 所管種別 | 防災教育 |
| 事業目的 | 東日本大震災では学校の管理下と保護者への引き渡し後などに、多くの園児・児童・生徒が犠牲になった。また、多くの学校避難所が開設され、教職員は子どもたちの安全確保に加えて、避難所の開設と運営、学校再開業務と忙殺された。この震災の教訓を生かして、近い将来発生する巨大災害に備えるため、防災管理マニュアルを作成し、これを継続的に改善することが重要である。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ○地震等の災害を防止・軽減するため、時間帯に応じた具体的な対処行動を避難訓練を通して、児童生徒によく理解させ、しっかり身につけさせる。 ○毎年学校防災管理マニュアルの見直しを図るとともに、年間計画に、防災計画、避難訓練を位置づける。 ○東日本大震災から得た教訓を踏まえた教育プログラムの検討。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | 各学校における復興教育の実施回数（回） | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | 1 | 2 | 1 | 1 | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ・震災の体験や教訓及び専門的知見を踏まえた地震・津波・火災発生時の対応訓練の実施。 ・町防災避難訓練への参加。（12月実施） ・教育委員会、南部防災館合同での防災学習。（11月実施） | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ○ 学校・行政機関と連携し避難場所の再確認をする。 ○ 日ごろから家庭や地域社会と密接な連携協力を図りつつ、児童生徒に対する防災教育を推進していく。 ○ 今後も地域防災活動を行う人材や将来の地域防災の担い手となる人材の育成に取り組む。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

47

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|--------------------------------------|-----|-------|------|------|
| 基本方針 | | 6 人権教育の推進 | | | | | | |
| 施策 | 1 人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 同和教育の推進 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 2,726 | R 5 | 2,691 | R 6 | 2,176 | 所管種別 | 人権教育 |
| 事業目的 | 学校・家庭・社会・関係機関等が時代の変化に応じた人権教育・啓発活動を推進することを通して、人権尊重の精神の寛容を図り、人権が共存する社会を築くことをめざす。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 学校・家庭・社会・関係機関等と密接な連携を図り、同和問題をはじめと日々の生活の中にある人権問題の解決を目指すとともに、真に人権の確立した社会の構築に努める。 すなわち、地域住民が交流を図ることを通して相互に理解を深め、地域が一体となったコミュニティづくりを進めていきたい。そのための研修と住民への啓発を怠らず進めて行く。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 分館巡回人権学習会の実施回数（回） | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 0 | 0 | 1 | 1 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 30会場で計281名の参加者があった。職員や教職員に対する事前研修会にも90名の参加があり、人権の啓発に関しては達成できた。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 今後も人権に関する事前研修会及び分館巡回人権学習会を積極的に行っていく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

48

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---------------------------------------|-------------------|---|------------------------------|-----|------|------|-----|--|--|--|
| 基本方針 | | 6 人権教育の推進 | | | | | | | | | | |
| 施策 | 1 人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進 | | | | | | | | | | | |
| 事業名 | 男女共同参画社会の実現に向けた学習活動への推進 | | | | | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 人権教育 | | | | |
| 事業目的 | 男女共同参画社会の実現に向けて、男女・外国人・高齢者・子ども・性的マイノリティ等、様々な人権に関する問題に対し、学校・家庭・地域が一体となって、お互いを認め合い、尊重し合い、大切にされる社会の実現をめざす男女共同社会の構築を推進する。 | | | | | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 男女共同参画社会の実現に向けた人権研修会を実施する。 | | | | | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | | | |
| ※各年度の 数値は | 男女共同参画社会実現の人権研修会の実施 回数（回） | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | | 0 | 0 | 1 | 1 | | | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 単独での男女共同参画社会実現のための研修会は実施していないが、分館巡回人権学習会や人権啓発映画会、人権講演会を実施し、広く学習の機会を設けた。 | | | | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | | | | | |
| | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | | | | | | |
| D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | | 今後も、男女共同参画社会実現の人権研修会を実施していく。 | | | | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | | | | | |
| | 休 廃 止 | | | | | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

49

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|-------------------------------|-----|-----|------|------|
| 基本方針 | | 6 人権教育の推進 | | | | | | |
| 施策 | 1 人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 共生社会の実現に向けた学習活動への支援 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 320 | 所管種別 | 人権教育 |
| 事業目的 | これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障がい者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会の実現に向けて、ノーマライゼーションの考え方を基本に、障がいのある人もない人も互いの人権を尊重し合う教育の推進に努める。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 共生社会実現に関する人権教育研修会を実施する。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 共生社会実現に関する人権教育研修会の実施回数（回） | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 0 | 0 | 1 | 1 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 令和7年2月2日（日）に日本初義手の看護師で元北京・ロンドンパラリンピック競泳日本代表の『伊藤真波』氏による人権講演会を実施した。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 今後も、共生社会実現に関する人権教育研修会を実施していく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

50

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|---|-----|-----|------|-----------|
| 基本方針 | | 7 文化振興 | | | | | | |
| 施策 | 1 文化財に主体的に関わり、身近に感じ、魅力を広げる活動の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 文化財保護・活用 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 12 | R 5 | 10 | R 6 | 10 | 所管種別 | 文化・スポーツ振興 |
| 事業目的 | 文化財行政に対し参考となるべき意見を陳述していただくことによって、海陽町内の文化財行政の向上を図る | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> ・海陽町内にある指定文化財における現状変更についての審議及び情報共有 ・海陽町内の文化財に関する情報共有 ・その他文化財行政に関する調査・審議・情報共有 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 文化財保護審議会の開催回数（回） | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 2 | 3 | 3 | 3 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 定例となっている審議会の開催に加え、文化財の現地研修会などを行うことができ、恒例行事として根付いてきつつある。また、当町の活動ではないが海部郡文化財保護審議会連絡協議会、徳島県市町村文化財保護審議会連絡協議会等でも研修会の再開が行われ、出席が可能な委員の出席等が見られた。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 審議会は文化財に対する審議だけで無く、委員同士や事務局の情報共有などの場としても活用し、文化財の効果的な活用方法について協議するなどしていく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

51

| | | | | | | | | |
|---|---------------------------------------|---|-------------------|-------------------------|-----|-----|------|-----------|
| 基本方針 | | 7 文化振興 | | | | | | |
| 施策 | 1文化財に主体的に関わり、身近に感じ、魅力を広げる活動の推進 | | | | | | | |
| 事業名 | 地域文化伝承の語る仕組みづくり | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 文化・スポーツ振興 |
| 事業目的 | 海陽町内の地域文化を伝承する会の発足 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 海陽町内の地域文化を伝承する会の発足に伴う調査研究及び検討 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 地域文化伝承の会の発足 | | | 検討 | 検討 | 検討 | 発足 | 発足 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 検討 | 検討 | 検討 | 検討 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 地域文化に関係する団体の状況等確認し検討をする | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | |
| | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | | |
| | ○ | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 地域文化に関係する団体の状況等確認し検討をする | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | 休 廃 止 | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

| | |
|------|----|
| 評価番号 | 52 |
|------|----|

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|----|-----|------|-----------|
| 基本方針 | | 8 スポーツ振興 | | | | | | |
| 施策 | 1 生涯スポーツ環境の充実 | | | | | | | |
| 事業名 | スポーツ少年団助成 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R4 | 405 | R5 | 405 | R6 | 405 | 所管種別 | 文化・スポーツ振興 |
| 事業目的 | スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活発化を図り、青少年にスポーツを振興し、以て青少年の心身に健全な育成を資することを目的とする。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | スポーツ少年団への活動費助成（野球、バレー、ミニバスケットボール、卓球等）や年一回、スポーツ少年団フェア（町内一斉奉仕清掃）などの活動をしている。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
| ※各年度の 数値は | スポーツ少年団フェアの実施回数（回） | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 0 | 1 | 1 | 1 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | スポーツ少年団フェア（町内一斉奉仕清掃）を実施した。 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超（目標を超えて達成している） | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%（目標を達成、もしくは概ね達成している） | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満（目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する） | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満（目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する） | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 少子化によりクラブ運営においては厳しい状況が続いている。多くの選手を確保することや、場合によっては複数のクラブと連携して一つのチームを構成することなどが課題となっている。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

53

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|--------------------------------------|-----|-------|------|------|
| 基本方針 | | 8 スポーツ振興 | | | | | | |
| 施策 | 1 生涯スポーツ環境の充実 | | | | | | | |
| 事業名 | 体育協会助成 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 1,510 | R 5 | 1,510 | R 6 | 1,510 | 所管種別 | 生涯教育 |
| 事業目的 | スポーツ振興のため、海陽町体育協会に対し補助金を交付することにより、各種スポーツ大会の開催、町民が生涯にわたりスポーツを行える環境づくりを行うことにより、町民の健康づくりの推進を図る。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していた大会も、今年は徐々に再開することができ、活発な体育協会の活動が戻ってきた。引き続き、各クラブの自主的な運営を促し、主催する大会等のサポートをしていく。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 各種スポーツ大会の開催回数（回） | | | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 3 | 5 | 10 | 10 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 主なスポーツ大会 ・海陽町体協杯バレーボール大会 ・海陽町体育協会グラウンドゴルフ大会（海南・海部・宍喰） ・海陽町体協杯壮年野球大会 ・海陽町体協杯軟式野球一般大会 ・海陽町体協杯フットサル大会 ・海陽町体協杯バトミントン大会 他 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | クラブの主体性を尊重しながら、各種スポーツ大会の開催回数を増やしていく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

54

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|-----|-----|------|-----------|
| 基本方針 | | 8 スポーツ振興 | | | | | | |
| 施策 | 1 生涯スポーツ環境の充実 | | | | | | | |
| 事業名 | 新春ふれあい駅伝大会運営 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 540 | R 5 | 540 | R 6 | 540 | 所管種別 | 文化・スポーツ振興 |
| 事業目的 | 地域スポーツの振興として、駅伝大会を実施することにより、青少年の体力向上や、町内外を問わず普段交流のない年代が駅伝大会を通じて交流することができる。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 毎年1月の第3日曜日に100チームを上限として駅伝大会を実施。二部制で、一部は小学生男女、中高生女子のチームが走る。二部は中高生男子、一般（成人）、オープンのチームが走る。また、小学生男子・女子、中高生男子・女子、一般の5部門上位3チームと各区間の区間賞を表彰する。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 新春ふれあい駅伝大会の参加チーム数 (チーム) | | | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 0 | 43 | 51 | 48 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 小学生男子9チーム、小学生女子6チーム、中高生女子6チーム、中高生男子11チーム、一般16チームの計48チームが参加。（※申込は50チーム） | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上~100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上~80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | インフルエンザも流行する時期なので、基本的な感染症対策を講じながら大会を運営していく。 また、多くのチームに参加してもらえるよう、大会の周知を行う。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

55

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|--|-----|-------|------|-----------|
| 基本方針 | | 8 スポーツ振興 | | | | | | |
| 施策 | 1 生涯スポーツ環境の充実 | | | | | | | |
| 事業名 | 総合型スポーツクラブ | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 4,000 | R 5 | 4,000 | R 6 | 4,000 | 所管種別 | 文化・スポーツ振興 |
| 事業目的 | 地域住民によって組織された自主的な総合型地域スポーツクラブの活動が、より積極的に展開することで、クラブの一層の充実・発展を図るとともに、クラブ活動を通じて生きがいのある生活と活力のある社会づくりを形成することを目的として総合型スポーツクラブの運営に対し、補助金を交付する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 各種スポーツ教室（ボクササイズ、エアロビクス、キッズダンス等）、トレーニングジムの運営、イベント（名所ウォーキング、スポーツレクリエーションフェスタ等）、町からの委託事業（介護予防運動、健康相談・検診後の運動支援等） | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 健康維持や体力づくり教室の実施回数 (回) | | | 300 | 300 | 300 | 300 | 300 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 457 | 458 | 465 | 464 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> 子ども体力向上事業（キッズレクスports・サーフィン体験）延べ161名参加 のんびりウォーク 27名参加 幼稚園巡回運動あそび教室 4歳児5歳児 かいよう元気体操（各公民館）延べ582名参加 血圧計を一家に一台プロジェクト 97名 特定健診時運動アドバイス 28回 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | ○ | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | <ul style="list-style-type: none"> スポーツを通じた青少年の健全育成に取り組むほか、地域のスポーツ指導者の育成に努め、子どもから高齢者まで幅広い世代にスポーツの楽しさを伝える。 クラブの活動を通して、地域住民の交流を深め、スポーツへの意識向上を図る。 またクラブ会員の更なる確保のため、引き続き、広報の充実や魅力的な事業を検討する。 | | | | |
| | | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

56

| | | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|---|-----|-----|------|---------|-----|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | | |
| 施策 | 1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上 | | | | | | | | |
| 事業名 | 教職員の指導体制と学校の支援体制充実 | | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 教育基盤の整備 | |
| 事業目的 | 学校での会議や研修会のスリム化により、会議や研修会の時間短縮と質の向上を図り、教職員の指導力の向上と長時間勤務の実態を改善する。 | | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 資料の事前配布や進行の工夫、会議の統合・廃止、終了時間の厳守、ペーパーレス化を図る。教職員が担うべき業務に専念できるよう、勤務時間管理の適正化や学校現場における業務改善、校務を情報化することによる効率化等、教職員の働き方改革を進める。 | | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 教職員の経験年数や職務に応じた研修への参加率 (%) | | | | 10% | 10% | 20% | 20% | 30% |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | | 10% | 10% | 14% | 16% | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 研修の機会を積極的に求めて、主体的に研修に努めた。 総合教育センターの「総合教材ポータルサイト」で、教材やグループ研の成果物などを、研修で活用した。 | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ○ICTを活用した教育活動の推進のため、学校において求められる立場、役割、資質・能力に応じた研修の実施等、教員のICT活用指導力の向上を図る。 ○校務支援システムやタブレットを活用することで、会議をペーパーレス化し、資料の準備時間や紙費用といったコストの大幅な削減と業務効率化を目指す。 ○総合教育センターが月1回オンデマンド配信で実施している、「まなびのサポートタイム」を活用し、研修に役立てる。 | | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

57

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|-------------------|--|------|-------|-------|---------|------|--|--|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | | | | |
| 施策 | 1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上 | | | | | | | | | | |
| 事業名 | 教職員の健康管理と働き方改革の推進 | | | | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 教育基盤の整備 | | | |
| 事業目的 | 令和元年12月に給特法（公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法）が改正され、同法第7条に基づき定められた国の指針において、教育職員が正規の勤務時間外に在在等をする時間（在校等時間）の上限（原則：月45時間、年360時間）が定められた。 | | | | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 時間外在校等時間の上限方針 原則として次に掲げる範囲内とする。 ① 1箇月について45時間 ② 1年について360時間 | | | | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | | |
| ※各年度の 数値は | 教職員の超過勤務の時間を1箇月について45時間、1年について360時間以内とする。 (%) | | | | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | | 73% | 79.2% | 80.2% | 70.8% | | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 時間外在校等時間（月当たり平均時間） ・ 4月 小学校35.4 中47.8 ・ 8月 小学校 4.3 中13.1 ・ 12月 小学校26.1 中41.3 ・ 5月 小学校39.8 中57.1 ・ 9月 小学校49.3 中23.7 ・ 1月 小学校26.1 中40.1 ・ 6月 小学校39.1 中49.9 ・ 10月 小学校39.3 中48.7 ・ 2月 小学校28.5 中40.8 ・ 7月 小学校29.9 中47.1 ・ 11月 小学校32.4 中47.4 ・ 3月 小学校27.2 中37.6 | | | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | | | |
| | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | | | | |
| | B 目標達成率80%以上~100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | | | | | |
| | ○ | C 目標達成率60%以上~80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | | | | |
| D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ○学校における働き方改革の一環として、夏季の長期休業中に学校閉庁日を設けて、教員が休暇を取得しやすい環境を整えて、教員の心身の健康保持を図る。 ○原則として休日や勤務時間外における電話対応は行わないこととし、留守番機能付き電話により対応する。 ○中学校の部活指導員の配置。 ○教育支援員の充実や学校DXの推進などの環境整備を行う。 | | | | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

58

| | | | | | | | | |
|---|---|---|-------------------|---|-----|------|------|---------|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | |
| 施策 | 1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上 | | | | | | | |
| 事業名 | 部活動改革への対応の検討 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 0 | R 6 | 0 | 所管種別 | 教育基盤の整備 |
| 事業目的 | 令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図ること等を踏まえ、運動部活動の地域への移行を着実に実施するとともに、地域におけるスポーツ環境を整備し、子どもたちがそれぞれに適した環境でスポーツに親しめる社会を構築することを目的として、運動部活動の地域における受け皿の整備方策等について検討する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 休日の部活動の段階的な地域移行を図ること等を踏まえ、学校の状況を鑑みて、関係者や地域と協議を進める。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 土日の部活動の地域移行 | | | 検討 | 検討 | 移行準備 | 一部移行 | 移行 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 検討 | 検討 | 検討 | 検討 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | <ul style="list-style-type: none"> 令和6年 5月15日 第4回部活動の地域移行推進協議会 地域クラブの問題点について 令和6年 7月 1日 第5回部活動の地域移行推進協議会 地域移行アンケート集計結果・地域クラブ運営について 令和6年11月14日 第6回部活動の地域移行推進協議会 地域クラブ運営・スポーツ安全保険について 令和7年 2月14日 第7回部活動の地域移行推進協議会 地域クラブ運営・郡検討委員会の報告について | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | |
| | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | | |
| | ○ | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ○地域人材(部活動指導員)の配置 ○生徒の輸送手段の確保(平日・休日) ○教員の働き方改革 引き続き学校の状況を鑑みて、地域移行推進会議にて関係者や地域と協議を進める。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

59

| | | | | | | | | |
|---|---|---|-------------------|--|-----|-------|------|---------|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | |
| 施策 | 1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上 | | | | | | | |
| 事業名 | ICT教育の指導員の養成 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 495 | R 5 | 495 | R 6 | 1,760 | 所管種別 | 教育基盤の整備 |
| 事業目的 | ICTを活用した学習を行うことで、従来の学校教育では実現できなかった広がりを持った教育を実現する。また、教職員への支援としGIGAスクールサポーター及びICT支援員を配置することにより、整備された機器を最大限に活用した授業を展開する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ICT教育部会の設立 ・各学校情報主任が担当になり、必要に応じて会を開き情報の共有。 （校内UTM 無線LAN整備の検討・アップルペンの購入検討・持ち帰り学習向けの対応等） ICT支援員配置委託（R3～） ・学校におけるICT環境整備の設計、工事・端末等の使用マニュアル・ルールの作成・操作支援、校務システムの活用支援、メンテナンス支援、研修支援等（1企業配置） ・町雇用ICT支援員（2名）に対するサポート | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | 町内ICT部会の実施回数（回） | | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | 4 | 4 | 3 | 3 | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 令和5年度ICT教育部会実績 第1回ICT教育部会 令和6年6月21日 第2回ICT教育部会 令和6年11月18日 第3回ICT教育部会 令和7年3月10日 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | |
| | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | | |
| | ○ | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | ○ | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ICT支援員業務が関係者に十分周知されていない。 情報担当教員・ICT支援員・ICT支援員サポート委託業者 教育委員会ICT担当の役割の明確化・情報提供の機会を 作っていく。 | | | | |
| | | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

60

| | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|---|------|------|------|---------|--|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | | |
| 施策 | 1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上 | | | | | | | | |
| 事業名 | 配慮を要する子どもへの支援体制の充実 | | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | - | R 5 | - | R 6 | 115 | 所管種別 | 教育基盤の整備 | |
| 事業目的 | 学校教育になじめない子どもに対して、ICTの活用や関係機関の連携を深めることで、教育の質と機会均等を確保する支援体制の充実を図る。 | | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ○教室に入りづらい子どもが別教室からオンライン学習をうける。 ○病気等で休んでいる子どもとオンライン学習やタブレットを活用した学習支援を行う。 | | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | ICTの活用等による学習支援の実施率 (%) | | | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 40% | 100% | 100% | 100% | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ○学校教育になじめない子どもに対してのICT活用は、学習の保障と登校へのきっかけとなったが、支援を要する全ての子どもに対応ができなかった。 | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上~100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上~80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | ○ | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 第三の居場所事業を行う事業所と連携し、学校に行きづらい子どもがサポートとオンライン学習等を並行することで学力が保証できるよう会議を行っていく。 | | | | | |
| | | 継 続 | | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

61

| | | | | | | | | |
|---|---|---|-------------------|--|-----|--------|------|---------|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | |
| 施策 | 1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上 | | | | | | | |
| 事業名 | 特別支援教育の充実（巡回相談員の配置と活用） | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 51,293 | R 5 | 53,574 | R 6 | 69,046 | 所管種別 | 教育基盤の整備 |
| 事業目的 | 障がいにより特別な支援を必要とする児童生徒に対して、支援体制の整備促進を行い、将来的に社会に適応し、充実した生活を送ることができる力を育む。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | <ul style="list-style-type: none"> 支援の必要な児童生徒の人数を把握し、町費助教員を配置する。 学校等の関係機関に対して研修会を実施し、特別支援教育の理解を促進し、対応を強化する。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 ※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| | 町教育支援委員会で決定された 町費助教員と特別支援教育支援員の 配置率（%） | | | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | 教育支援サポートチーム等での 研修会の開催（回） | | | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | | | | 0 | 1 | 0 | 1 | |
| | 成果指標 の達成状況 (Do) | | | <ul style="list-style-type: none"> 1対1対応が必要とされた児童14名に対し、学校の状況やニーズに合わせ、14名の町費教員を配置した。 ムーブメント教育についての研修会を行い、各種関係機関の児童生徒に対する関わり方の理解を深めた。 | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今後の 取り組み の方向性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | <ul style="list-style-type: none"> 教員のニーズを把握し、研修の機会を作っていく。 巡回相談員を配置し、児童生徒の教育的サポートのアドバイスがもらえる環境づくりを行う。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

62

| | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|--|-----|-----|------|---------|-----|--|--|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | | | | |
| 施策 | 1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上 | | | | | | | | | | |
| 事業名 | 教育委員会表彰 | | | | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 91 | R 5 | 108 | R 6 | 156 | 所管種別 | 教育基盤の整備 | | | |
| 事業目的 | 海陽町における文化・体育の振興発展に功労があり、海陽町の名誉を高め、町民に明るい話題を提供するなど、功績のあった者を表彰する。町の学業や文化・スポーツ等の振興に貢献した個人・団体を表彰することで、地域住民のチャレンジ精神や積極的に学習やスポーツに取り組む意欲を高める。 | | | | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | ○海陽町文化・体育賞等にふさわしい候補者を事務局の方でリストアップする。（9月末日限） ○選考委員会に諮り、リストアップした候補者の中から受賞者を決定する。（10月後半頃） ○受賞者の功績を称え、表彰式を挙行し、受賞者に記念品を贈呈する。（とくしま文化推進期間中[11月3日から11月第3日曜日まで]の時期） | | | | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | | |
| ※各年度の 数値は | 文化・体育賞表彰者数（人） | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | | 2 | 4 | 0 | 3 | | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ○令和6年11月13日 令和6年度海陽町文化・体育賞等選考委員会を開催し、委員会において、文化功労賞1名、文化奨励賞1名、体育奨励賞1名が決定した。 ○令和6年12月6日 令和6年度海陽町文化・体育賞表彰式を開催した。 | | | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | | | |
| | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 選考委員から、 ①団体も表彰対象となるよう「団体も含む」に表彰規程を改正しては。 ②体育という文言も「スポーツ」に改正しては。 というご意見をいただいた。 令和7年度は選考基準の見直しを検討したうえで、候補者をリストアップし、選考委員会に諮りたい。 | | | | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

63

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|---------------------------------|-----|--------|------|---------|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | |
| 施策 | 2 学校経営の充実 | | | | | | | |
| 事業名 | 学校施設整備 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 50,708 | R 5 | 42,209 | R 6 | 24,648 | 所管種別 | 教育基盤の整備 |
| 事業目的 | 児童生徒の通う学校施設の維持管理及び運営を適切に行い、安全・安心な教育環境を将来に渡って提供する。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 学校施設個別計画に基づき修繕及び改修を実施する。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 学校施設個別計画に基づく修繕、改修等の 実施箇所（箇所） | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 2 | 3 | 5 | 3 | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 海南小プールろ過機更新工事 海南小2階渡り廊下アルミスクリーン設置工事 海南幼保統合施設修繕工事 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | ○ | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等 大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 今後も、学校施設個別計画に基づき、修繕及び改修を実施していく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

64

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-------------------|------------------------------------|-----|------|------|---------|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | |
| 施策 | 2 学校経営の充実 | | | | | | | |
| 事業名 | 衛生環境の向上（洋式トイレの整備） | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 0 | R 5 | 22040 | R 6 | 5546 | 所管種別 | 教育基盤の整備 |
| 事業目的 | 様式トイレの整備を行うことにより、衛生環境の向上を図る。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 各小中学校の和式トイレを洋式トイレに改修する。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 学校の洋式トイレの整備率（％） | | | 30% | 30% | 35% | 40% | 45% |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 26% | 26% | 35% | 35% | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 海南小学校トイレ改修工事設計委託業務 実喰中学校トイレ改修工事設計委託業務 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 今後も、衛生環境向上のため、様式トイレの整備を計画的に実施していく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

65

| | | | | | | | | |
|-------------------------|--|---|-------------------|--|------|-------|------|---------|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | |
| 施策 | 3 教育機会の確保 | | | | | | | |
| 事業名 | 就学援助 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 5,200 | R 5 | 5,999 | R 6 | 5,842 | 所管種別 | 教育基盤の整備 |
| 事業目的 | 経済的理由によって就学が困難な家庭に就学援助費を支給することで、すべての児童生徒の学びを保障し、義務教育の円滑な実施を推進する。 | | | | | | | |
| 主な事業内容 (Plan) | 町内小・中学校に在籍する児童・生徒の保護者が生活保護をうけている。もしくは世帯全員の収入額が教育委員会の定めた認定基準額を下回る場合対象となる。 認定された保護者に対し、学用品費※、新入学学用品費※、校外活動費、修学旅行費、給食費、学校病医療費、（※が付記された援助費項目以外は実費）を支給する。 当事業は一部が国の補助金対象事業となっている。 新入学児童生徒準備費は入学前支給を行う。 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 就学援助費支給率 (%) | | | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 100% | 100% | 100% | 100% | |
| 成果指標の 達成状況 (Do) | 要保護世帯6世帯9人・準要保護44世帯67人 (R7.3.31現在) 支給合計 4,932,556円 新入学児童生徒準備費 ・小学校新入学 6人 342,360円 ・中学校新入学 9人 567,000円 支給合計 909,360円 ◎支給総合計 5,841,916円 国庫支出金(要保護児童生徒費補助金)1/2補助 学用品費等 小学校 0円・中学校 0円 ◎補助金合計 0円 医療費 小学校 0円 | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上~100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上~80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今後の 取り組み の方向性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 今後も就学が困難な児童生徒の保護者に対して就学援助費を支給し、経済的支援を行う。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

| | |
|------|----|
| 評価番号 | 66 |
|------|----|

| | | | | | | | | |
|------------------|---|---|---------------|---|------|--------|------|---------|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | |
| 施策 | 3 教育機会の確保 | | | | | | | |
| 事業名 | 子どもあゆみ活用事業活用 | | | | | | | |
| 事業費(千円) | R 4 | 10,679 | R 5 | 13,744 | R 6 | 13,640 | 所管種別 | 教育基盤の整備 |
| 事業目的 | 小中学校の給食費補助や中学卒業祝金（第3子以降）等の経済的支援など、安心して子どもを生育させることができる環境の整備を推進する。 | | | | | | | |
| 主な事業内容(Plan) | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校学校給食費補助（地産地消分・小6中3地産地消特別分・給食費） ・第3子以降給食費補助 ・幼稚園給食副食費助成 ・新小中1年生体操服購入費助成 ・第3子以降中学卒業祝金 ・タブレット端末保険 他 | | | | | | | |
| 成果指標の状況 | 成 果 指 標 名 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | 第3子以降の園児・児童・生徒への「給食費」補助率（%） | | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | 100% | 100% | 100% | 100% | | |
| 成果指標の達成状況(Do) | <ul style="list-style-type: none"> ・給食費補助・・・延べ人数 小学校 2,750人 中学校 1,490人 7,973,600円 （区域外特別支援就学者）延べ22人 39,600円 合計 延べ4,262人 8,013,200円 ・第3子以降給食費補助・・・85人 3,322,528円 ・幼稚園給食副食費助成金・・・25名 576,690円 ・新小中1年生体操服購入費助成・・・73人 528,938円 ・第3子以降中学卒業祝金・・・8人 400,000円 ・タブレット端末保険・・・798,805円 | | | | | | | |
| 一次評価(内部)(Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | |
| | | A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している) | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している) | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する) | | | | | | |
| | D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する) | | | | | | | |
| 今後の取り組みの方向性 | | 拡 充 | 今後の方針(Action) | 今後も子どもを持つ保護者、多子世帯の保護者に対し経済的支援を行い、少子化対策の施策として継続していく。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | 休 廃 止 | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

67

| | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---------------------|-------------------|---|-----|-------|------|---------|--|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | | |
| 施策 | 3 教育機会の確保 | | | | | | | | |
| 事業名 | 町奨学金貸与・おかえReターン海陽奨学金支援制度 | | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 10,196 | R 5 | 10,066 | R 6 | 7,459 | 所管種別 | 教育基盤の整備 | |
| 事業目的 | 1. 経済的理由により修学が困難な者に対して奨学金を貸与する。 2. 返還助成制度により、本町へのUターン及び定住、地元就職の促進を図る。 | | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 1. 町奨学金貸与について ・海陽町奨学金貸与条例に基づき、毎年4月初旬までに申請、4月下旬審査会、5月上旬決定通知、5月中旬誓約書等の提出後、5月末までに1回目の貸与、以後4回に分けて貸与。 2. おかえReターン海陽・奨学金支援制度について ・Uターン就職者の奨学金返還を支援する制度で、4年制大学卒業者の場合、年間最大24万円を最長10年間助成する。対象奨学金は町奨学金、日本学生支援機構奨学金、県社会福祉協議会教育支援資金の3種類。特色としては、海部高校卒業生も対象としている。 | | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | |
| ※各年度の 数値は | おかえReターン海陽奨学金支援制度累計 申請者人数（人） | | | 16 | 18 | 20 | 22 | 24 | |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 16 | 16 | 14 | 10 | | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | 1. 町奨学金貸与について…奨学生審査委員会（4/30）で審査 貸与決定者1名（内訳（大学等1名3年間）・継続貸与者8名（大学等8名） （高校等 月額15,000円・大学等 月額50,000円） 令和6年度貸与額合計 5,400,000円 2. おかえReターン海陽奨学金支援制度について…認定者（交付決定者）10名 助成金 2,059,000円 | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| | A 目標達成率100%超（目標を超えて達成している） | | | | | | | | |
| | B 目標達成率80%以上～100%（目標を達成、もしくは概ね達成している） | | | | | | | | |
| | C 目標達成率60%以上～80%未満（目標達成はやや不十分であり、手法の変更等 大幅な改善を要する） | | | | | | | | |
| | ○ D 目標達成率60%未満（目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する） | | | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | 1. 奨学金貸与は、広報等で経済的支援である奨学金貸与制度の 周知を図る。 2. 奨学金返還支援助成制度は、更に制度の周知徹底を図るた め、海部高校のオープンキャンパスや入学説明会等でチラシを配 布し事業の周知を行うなど新規申請者の獲得、及び定住・定着に 向けて取り組む。 | | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | | |

令和7年度（令和6年度決算）事務事業評価シート

評価番号

68

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|-------------------|--|------|------|------|---------|
| 基本方針 | | 9 学校指導体制の充実と指導の質の向上 | | | | | | |
| 施策 | 3 教育機会の確保 | | | | | | | |
| 事業名 | 通学補助金交付 | | | | | | | |
| 事業費 (千円) | R 4 | 492 | R 5 | 469 | R 6 | 176 | 所管種別 | 教育基盤の整備 |
| 事業目的 | 遠距離通学に要する費用を援助することで、家庭の経済的負担の軽減と児童生徒の通学時の安全を図る。 | | | | | | | |
| 主な事業 内容 (Plan) | 「海陽町遠距離児童、生徒通学費補助金要綱」の規定により補助を行う。 (1) 小学校4km以上の遠距離通学の児童に交通機関の運賃に対して助成金を支払う。 (2) 中学校6km以上の遠距離通学の生徒に交通機関の運賃に対して助成金を支払う。 (3) 上記遠距離通学者で、自転車通学が認められる児童生徒には、自転車購入費に対して助成金を支払う。 (4) 次の〈1〉～〈3〉の全てに該当する者に助成金を支払う。 〈1〉海陽町教育委員会が指定校変更を認めた者 〈2〉校区をまたいでの遠距離者（距離数は従来どおりで交通機関を利用） 〈3〉海陽町教育委員会が助成を適当であると判断した場合 | | | | | | | |
| 成果指標 の状況 | 成 果 指 標 名 | | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
| ※各年度の 数値は | 小学校4km以上・中学校6km以上の通学費補助率（%） | | | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 上段が目標値 下段が実績値 | | | | 100% | 100% | 100% | 100% | |
| 成果指標 の達成状況 (Do) | ・宍喰小学校 バス代助成（回数券・定期券購入） 1名 11,700円 ・海陽中学校 バス代助成（定期券購入）川上地区 2名 164,160円 | | | | | | | |
| 事 業 の 達 成 度 評 価 | | | | | | | | |
| 一次評価 (内部) (Check) | A 目標達成率100%超（目標を超えて達成している） | | | | | | | |
| | ○ | B 目標達成率80%以上～100%（目標を達成、もしくは概ね達成している） | | | | | | |
| | | C 目標達成率60%以上～80%未満（目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する） | | | | | | |
| | | D 目標達成率60%未満（目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する） | | | | | | |
| 今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性 | | 拡 充 | 今後の方針 (Action) | ○該当者に対し円滑に補助決定を行うことができた。今後も遠距離から通学している児童生徒の保護者の負担軽減のため、現状のまま事業を継続する。 | | | | |
| | ○ | 継 続 | | | | | | |
| | | 縮 小 | | | | | | |
| | | 見 直 し | | | | | | |
| | | 休 廃 止 | | | | | | |

4. 外部評価委員会の意見

(1) はじめに

今年度は、一次評価を実施した68事業（P7～P74参照）の中から抽出した海陽町教育委員会主要施策等の11事業（P2表3参照）について、各事業所管係から事業目的、事業内容、一次評価、今後の取り組みの方向性についてヒアリングを実施し、事業の進捗と事業実績の一次評価が適切かどうかを検討した。

評価を行った11の主要事業それぞれについて、二次評価と所見を述べさせていただく。また、海陽町教育委員会会議の活動状況や海陽町教育委員会の実施する点検及び評価に関しての方法や内容、教育委員会の活動状況、評価シートの表記法についても意見（総評）を述べさせていただく。

(2) 抽出した11事業の一次評価と二次評価と意見

| No | 評価番号 | 事業名 | 一次評価（自己評価） | | 二次評価（外部評価） | |
|--|------|-------------|------------|--------|------------|--------|
| | | | 評価 | 取組の方向性 | 評価 | 取組の方向性 |
| 1 | 4 | 地元高校魅力化推進補助 | B | 拡充 | B | 拡充 |
| 意見 海陽町は、就学前から高校教育までが受けられる素晴らしい教育環境がある。毎年、町内の中学校から海部高校へ70%～80%の生徒が、郡内全体からは、60%弱の生徒が入学している。海部郡内の生徒数が減少する中、毎年100人ほどの入学者がいることは、郡外・県外からの入学者が増えているからである。このことは、今年度からの第3寮開設に見られるように、学校・県・町・地域が連携して、海部高校の魅力化事業が推進されている結果であると考えられる。 今後も、さらに効果的な取り組みとなるよう事業の精査を続けるとともに郡内生徒の入学者が増えるような効果的な取り組みも引き続き考えていただきたい。 | | | | | | |

| No | 評価番号 | 事業名 | 一次評価（自己評価） | | 二次評価（外部評価） | |
|---|------|------------|------------|--------|------------|--------|
| | | | 評価 | 取組の方向性 | 評価 | 取組の方向性 |
| 2 | 11 | グローバル教育の推進 | C | 拡充 | B | 拡充 |
| 意見 英語学習や英語を使った活動を通じて、コミュニケーション力、英語力を育み、グローバルな視点を持つ海陽町の子どもたちを育成するために、小学校での英語で英語を教える授業の展開、小学校の朝活動でのアルファベット、フォニックス、メトロラーニング、コミュニケーション活動の実施、中学校での朝活動でのオンライン英会話、コミュニケーション活動の実施、中学校の総合的な学習時間のグローバル班の授業の中で、地域と連携して、英語を日常の生活の中に浸透させる取り組みや参加型イベントの実施による英語環境の提供等、学校英語教育や学校外英語教育の充実を図っていることは大いに評価できる。また、グローバル教育を継続して推進していくために、 | | | | | | |

民間会社と提携して、指導者を確保していることは素晴らしい取り組みである。
 今年度から始まるこども園でのイマージョン教育や中学校での外国語「英語」では、すべて英語を使った授業展開にも期待している。
 成果指標が達成できず一次評価はCであるが、グローバル教育の進捗や成果を総合的に勘案して二次評価をBとした。

| No | 評価番号 | 事業名 | 一次評価（自己評価） | | 二次評価（外部評価） | |
|----|------|----------|------------|--------|------------|--------|
| | | | 評価 | 取組の方向性 | 評価 | 取組の方向性 |
| 3 | 12 | ICT教育の推進 | D | 拡充 | B | 拡充 |

意見

ICT機器を効果的に活用して子どもたち自らが未来や社会を創り出していく資質・能力を育成するために、令和6年度は、2画面が投影でき、デジタル教科書と子どもたちの意見等をミラーリングして映すことができるウルトラワイドプロジェクター型電子黒板「ワイド」の導入、教育ネットワークを安定的に活用するため、ネットワーク機器を新たなものに更新する等、ICT教育環境の整備に力を入れている。また、教職員のICT活用能力の向上を図るため、ICT教育部会での協議や授業研修会を開催しており評価できる。

今後もICT教育の先進地として、最新機器や教育支援ソフトの導入や教職員のICT活用能力の向上を図り、ICT教育をさらに推進していただきたい。その一方で、記憶の定着や思考力、読解力の発達に効果的である紙媒体の教材もバランスよく活用していただきたい。

成果指標が達成できず一次評価はDであるが、ICT教育の進捗や成果を総合的に勘案して二次評価をBとした。

| No | 評価番号 | 事業名 | 一次評価（自己評価） | | 二次評価（外部評価） | |
|----|------|-------------|------------|--------|------------|--------|
| | | | 評価 | 取組の方向性 | 評価 | 取組の方向性 |
| 4 | 19 | 放課後子ども教室の運営 | A | 継続 | A | 継続 |

意見

町内3小学校の児童数251人のうち、3館の登録児童数は207名で、3館の平均登録児童数の割合は83%と多い。年間開所日も194日あり、学校の授業日には、ほぼ開所している。

放課後子ども教室では、子どもが自ら考え、選択し、行動する機会が提供されており、放課後に子どもたちが主体的に過ごすことができる活動拠点となっている。また、地域の大人の協力を得て、スポーツや文化活動などの体験活動や地域住民との交流活動、学習機会等を提供し、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりが推進できており、評価できる。

| No | 評価番号 | 事業名 | 一次評価（自己評価） | | 二次評価（外部評価） | |
|----|------|-------|------------|--------|------------|--------|
| | | | 評価 | 取組の方向性 | 評価 | 取組の方向性 |
| 5 | 31 | 公民館活動 | A | 継続 | B | 拡充 |

意見

交流グラウンドゴルフ大会と公民館大会を合わせたの参加者が、基準とした令和4年度より、大幅に増加していることは、評価できる。その一方で、少子高齢化や人口減少、価値観の多様化など、公民館を取り巻く社会状況を背景として、地域意識の希薄化・コミュニティの弱体化が本町でも進んでいる。このような状況を乗り越えていくためには、公民館の果たす役割がとても重要である。昨年度も意見を述べたが、それぞれの公民館主事が、参加してみたいくなるような魅力的な行事や参加しやすい開催時間の設定など、町民のニーズに合わせた行事の実施と広報紙や町のホームページ、SNS等による広報で若者層を取り込み、幅広い年代層の公民館活動への参加に努めて欲しい。また、伝統文化継承・地域活性化等補助金制度も活用して分館活動の活性化につなげて欲しい。この補助金制度を知らない人も多くいると思われるので、広報にもしっかりと努めていただきたい。

成果指標の達成により一次評価はAであるが、昨年度に述べた意見についての工夫改善の具体策が少し不足しているので、二次評価をBとした。

| No | 評価番号 | 事業名 | 一次評価（自己評価） | | 二次評価（外部評価） | |
|----|------|-----------|------------|--------|------------|--------|
| | | | 評価 | 取組の方向性 | 評価 | 取組の方向性 |
| 6 | 41 | 図書館の運営の充実 | B | 継続 | B | 継続 |

意見

令和6年度の海南図書館・穴喰図書館両館合わせたの貸出冊数が70,450冊で令和5年度に比べ約5,000冊減少しているが、町民一人における年間平均貸出冊数は令和5年度より増加している。これも図書館システムの改修によるサービスの向上や移動図書館巡回場所の拡大、予約・リクエストサービス、ホームページの改修、また、国立国会図書館のデジタル資料を町立の両図書館で閲覧・複写できるようになったこと等、住民の皆さんが図書に触れる機会を増やしてきたことの成果であり、高く評価する。

今後も誰もが集え、行きたいと思える図書館となるよう、サロンの要素を取り入れられたり、展覧会等の企画をしたりするなど、運営の工夫・改善に引き続き努めていただきたい。

| No | 評価番号 | 事業名 | 一次評価（自己評価） | | 二次評価（外部評価） | |
|----|------|---------|------------|--------|------------|--------|
| | | | 評価 | 取組の方向性 | 評価 | 取組の方向性 |
| 7 | 47 | 同和教育の推進 | B | 継続 | B | 継続 |

意見

人権講演会、人権啓発映画上映会、人権コンサート、分館巡回人権学習会の開催により、同和問題を含め、すべての人権問題について正しく理解し、人権尊重の意識を高める機会となっている。

「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行されて9年目となる。同和問題を含め、すべての人権問題の解消には、教育及び啓発の果たす役割が大きいと言われていいる。今後も、すべての人々が人権問題について正しい知識を学び、正しく理解するこ

とができるよう、上記の各種研修会等のあらゆる機会を通じて、教育・啓発に積極的に取り組んでいただきたい。

| No | 評価 番号 | 事業名 | 一次評価（自己評価） | | 二次評価（外部評価） | |
|----|----------|--------------|------------|--------|------------|--------|
| | | | 評価 | 取組の方向性 | 評価 | 取組の方向性 |
| 8 | 54 | 新春ふれあい駅伝大会運営 | A | 継続 | A | 継続 |

意見

毎年1月の第3日曜日に開催されており、地域スポーツの振興とふだん交流のない年代や他町の人が駅伝大会を通じて交流することができる地域の伝統的な大会となっている。令和6年度も小学生15チーム、中高生17チーム、一般16チームの計48チームが参加しており、成果指標を大きく超えている。また、より多くの方が参加できるように、令和7年度より走る距離を短くするなど工夫も見られ、評価できる。今後も、町民の健康増進やコミュニケーションの場となるよう、情報発信や運営方法の工夫改善を図っていただきたい。

| No | 評価 番号 | 事業名 | 一次評価（自己評価） | | 二次評価（外部評価） | |
|----|----------|--------------|------------|--------|------------|--------|
| | | | 評価 | 取組の方向性 | 評価 | 取組の方向性 |
| 9 | 58 | 部活動改革への対応の検討 | C | 継続 | B | 継続 |

意見

少子化が進む中、生徒たちがスポーツや文化・芸術活動を生涯にわたって楽しみ、継続できる環境を整えるとともに教職員の負担軽減のために、令和5年度より海陽町立中学校の部活動地域展開に係る会議を設置し、海陽町の実態に合った部活動の在り方について検討していることは評価できるので、二次評価をBとした。

今後は、活動の楽しさや努力の大切さ、自分で考えて解決する力、仲間の大切さなどを育ててきた学校部活動の役割が引き継いでいけるよう、地域や学校との連携を密にし、持続可能な部活動の地域展開を進めていただきたい。

| No | 評価 番号 | 事業名 | 一次評価（自己評価） | | 二次評価（外部評価） | |
|----|----------|-------------------|------------|--------|------------|--------|
| | | | 評価 | 取組の方向性 | 評価 | 取組の方向性 |
| 10 | 64 | 衛生環境の向上（洋式トイレの整備） | B | 継続 | B | 継続 |

意見

生活様式の変化に伴い、家庭などにおいては洋式トイレが一般的となっており、一日の大半を学校で過ごす児童・生徒がトイレを我慢することがないようにするため、また避難所として高齢者や身体の不自由な方が利用しやすい施設とするため、今後も小中学校においてトイレの洋式化整備率の目標が達成できるよう計画的に進めていただきたい。

| No | 評価 番号 | 事業名 | 一次評価（自己評価） | | 二次評価（外部評価） | | | | |
|---|----------|----------------------------|------------|--------|------------|--------|-----|-----|----|
| | | | 評価 | 取組の方向性 | 評価 | 取組の方向性 | | | |
| 11 | 67 | 町奨学金貸与・おかえ Re ターン海陽奨学金支援制度 | D | 継続 | C | 継続 | | | |
| 意見 | | | | | | | | | |
| | | H30 | R 1 | R 2 | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | |
| | | 町奨学金新規貸与者（人） | 14 | 8 | 6 | 5 | 1 | 7 | 1 |
| | | おかえ Re ターン海陽奨学金（人） | | 14 | 11 | 16 | 15 | 14 | 10 |
| <p>町奨学金の貸与者が平成30年を境に減少している。生徒数の減少も一因であると考えられるが、減少している原因を精査し、貸与者が増えるような対策を検討して、本町の奨学金制度が実効性のあるものにしていただきたい。</p> <p>一方、おかえ Re ターン海陽奨学金支援制度の認定者（交付決定者）も、令和元年度の制度ができて以来、人数が横ばい状態である。若者の地元就職の促進と産業人材の確保や定住促進に効果のあるこのすばらしい制度をより広く周知するための方策を検討して、より多くの若者が本町へUターンできるよう引き続き努力していただきたい。</p> <p>成果指標が達成できず一次評価はDであるが、この事業の制度の広報等に工夫が見られるので、二次評価をCとした。</p> | | | | | | | | | |

(3) 教育委員会会議の活動状況について

教育委員会会議については、毎月1回開催する定例会と、必要に応じて開催する臨時会は、回数・時期共に適切である。教育委員からの情報提供や事務局からの事業の進捗状況及びその他の関連事項について、委員と事務局の間で意見交換が活発に行われている。各委員とも高い関心と問題意識のもと、海陽町の教育に関する様々な案件に関して十分に審議し、議決されている。

県内や県外研修に積極的に参加され、教育委員としての資質向上にも努められており、大いに評価する。研修により得られた新しい情報等を教育行政にも反映していただきたい。

学校訪問については、年1回の町内の幼・小・中学校の訪問や運動会・体育祭、入学式・卒業式等の学校行事への参加等により、児童生徒や教職員の様子を見たり、意見交換等を行っており、本町における学校教育の現状を把握するうえで大変有意義である。今後もより一層、学校との連携を密にし、教育活動の効果的な推進に尽力されることを期待している。

教育委員会が行っている事務事業を住民の皆さんに知ってもらうことは、教育行政への理解や信頼を深めたり、参加意識を高めるうえで、とても重要なことである。町のホームページや広報紙等を積極的に活用して情報発信に努めていただきたい。

(4) 総評

令和6年度の事務事業の一次評価（自己評価）は、海陽町第3期教育振興計画（令和3年度から令和7年度までの5年間）の目標及び令和6年度海陽町教育基本方針に基づ

いたものとなっており、着実かつ適切に執行されていると認められる。

また、今回実施した68の事務事業ごとに事業目的、事業内容、事業の実施状況、事業費、評価、今後の方針が評価シート一枚にまとめられており、事務事業の計画の進捗状況や成果、課題が十分に確認することができた。

令和6年度も一次評価を実施した68の事業の中から抽出した海陽町教育委員会主要施策等の11事業と教育委員会の活動状況について二次評価を行った。点検・評価を実施した11の事業や教育委員会の活動状況について、各担当から具体的で分かりやすい説明と質問に対しての適切な回答があり、施策について十分に理解することができるとともに施策の課題解決に向けた今後の方針についても具体的に把握することができた。

各事業所管係による事業の達成度評価については、A、B、C、Dの4段階の一次評価（自己評価）のうち、Aが全体の約22%の15事業、Bが約65%に当たる44事業、Cが約9%の6事業、Dが約4%に当たる3事業という結果となっている。令和5年度は、Aが全体の約28%、Bが約65%、Cが約6%、Dが約1%であり、令和6年度と大きな差はない。自己評価がAやBであっても、事業の見直しや改善等を含め、課題解決の検討に努め、より事業効果が高められるよう、さらなる事業の充実に期待したい。

今後の取り組みの方向性については、「拡充」、「継続」、「縮小」、「見直し」、「休廃止」の5段階の一次評価（自己評価）のうち、全体の約90%に当たる61事業が「継続」、拡充が約9%の6事業、「縮小」が0、「見直し」が1事業、「休廃止」は0という結果となっている。

「継続」とした事業については、より効果的・効率的にするために、従来通りの内容で実施するのではなく、地域の教育ニーズや社会情勢の変化に合わせて、事業内容を柔軟に見直ししていただきたい。

「拡充」とした事業については、内容の充実、教育環境の整備、地域との連携強化など、より効率的な施策を検討し、適切に進めていただきたい。

「見直し」とした事業については、費用対効果、地域のニーズ等をさらに検証して、事業内容の見直しや実施方法の工夫、業務の効率化を図り、より柔軟な対応に努めていただきたい。

(5) おわりに

教育委員会には、この事務事業の点検・評価の内容を十分に精査し、教育行政の質的な向上に向けてさらなる工夫を講じられるとともに、海陽町第3期教育振興計画の達成に向け最大限の努力をほらい、住民のニーズに的確に応えていかれることを期待する。

令和7年7月18日

海陽町教育委員会外部評価委員会

評価委員 福井 千賀子

評価委員 皆津 隆一

海陽町教育委員会外部評価委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、海陽町教育委員会（以下「教育委員会」という。）に置く外部評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第2条 委員は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 教育委員会が実施した事務事業について、外部の視点から評価を行い、教育委員会に評価結果を報告すること。
- (2) その他教育委員会が必要と認めること。

(外部評価委員の選任)

第3条 委員は教育等に学識を有する者2人を教育委員会が選任する。

- 2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は再任することができる。

(会議)

第4条 委員は教育委員会から事務事業の事後評価の報告が行われた場合、外部評価を行うものとする。

- 2 委員は必要があると認めたときは、委員以外の者を出席させて意見又は説明を聞くことができる。

(その他)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が定める。

附則

この要綱は、令和元年6月26日から施行する。

